

3) まとめ

3-7) 利用実態調査

①利用者数

●平日の利用者の増加

今回調査では、秋期の平日の利用者 3,700 人、休日利用者 5,400 人という結果が出ており、21 年前（昭和 51 年）のほぼ同時期の調査での平日 2,800 人、休日 6,000 人という利用と比べて、平日の利用の 3 割増、休日の 1 割減という結果が出ている。

これは、休日においてはレクリエーション活動の広域化や周辺でのレクリエーション施設の整備により当宮跡の利用が低下し、平日では、周辺住民の公園的利用が中心なため、周辺人口の増加に伴い利用も増加してきていると推測される。

●全体利用者数の増加

昭和 51 年調査では、調査結果をもとに宮跡の年間利用者数が 30 万人と推計されているが、今回調査結果をこれに当てはめると、年間の 3/4 を占める平日の利用が大きく増加していることもあり、年間利用者は約 36.5 万人と推計され、利用者数の増加傾向が読みとれる。

②利用形態

●徒歩を中心とした利用

アンケート調査では、利用交通手段は自動車が 5 割近くを占めていたが、実態調査では平日、休日の平均で 25% 弱であり、逆に徒歩及び自転車利用者が 6 割台と多くなっている。

これは、アンケートでは主な交通手段として聞いている電車、バス等もここでは末端交通手段としての徒歩でカウントされていることと、アンケート調査の対象が宮跡内でゆっくりとくつろいでいる利用者が中心で、徒歩や自転車利用者の足早に移動している人に対しては調査を行いにくかったという理由によるものである。

自動車利用については、実際の交通手段としてはこの 25% という数値が現実に近い数値と思われる。

●14 時をピークとした万遍ない利用

主要箇所での利用形態調査では、平日、休日とも 14 時が利用のピークとなっている。またとくに休日では、9 時あるいは 17 時の調査時点でも 100 人以上の滞在者がおり、終日万遍ない利用がみられた。

●広場を中心とした利用

最も利用者数の多かったのは第 2 次朝堂院跡周辺であり、ここでは大極殿の復元基壇や朝堂院跡の芝生地で、散歩や休憩、食事、軽スポーツなど多様な活動がみられた。

●利用者層毎に異なる活動形態

宮跡利用者は大きくは高齢者を中心とした個人、家族連れ、男女のカップルを含む小グループ、団体等の大グループの 4 つに分けられる。

個人は、散歩、散策が多いが、写真やスケッチ等の趣味の活動を行うものもおり、家族連れは子供を遊ばせたり弁当を広げたりとのんびりとくつろいでいる。また小グループでは家族連れと類似した利用があるが、これにバドミントン等の軽スポーツや、スポーツの練習が加わる。

大きな団体は、資料館や遺跡の見学を目的とした生徒、学生の団体とサッカー、野球等を行うスポーツ目的の団体に分けられ、前者の団体には、徒歩やバスで訪れる 10～30 人程度の趣味のグループもある。

●休日を中心とした健康づくりの場としての利用

宮跡の利用形態として、多様な健康運動やスポーツ活動が行われているが、特に休日では、多目的広場でのサッカー、野球等の本格的な試合から練習、また園地でも広がりのある部分ではゲートボールやキャッチボール、フリスビーなどの軽スポーツが行われ、園路もジョギングコースとして利用されていた。

●駐車場での変則的利用

駐車場は平日で 500 台弱、休日で 800 台弱の駐車が見られ、特に資料館駐車場は平日、休日で差がなく、フル稼働の状況であった。

この利用の特徴として、資料館、遺構展示館という 2 つの拠点施設間を移動しての駐車バスでみられ、これは広い園内を短時間で見学するための手段と思われるが、自動車でもこうした手法をとる同一車両の利用があるものと思われる。

また遺構展示館駐車場では、トイレや売店の利用のための駐車、あるいは休憩、仮眠のための駐車もみられ、極端な場合では駐車場を利用しつつ車外に一步も降りないという例もあった。

●宮跡内の不法駐車

休日の利用では、内裏北東側の道路から出入りして、宮跡内の園路上や圃場に駐車する車両が 100 台以上みられた。これは隣接する遺構展示館駐車場が満杯とはなっていないことから、最も利用が多かった第 2 次朝堂院跡周辺に隣接する場所として、不法駐車が行われたと思われる。

●朝夕の交通量の多いみやと通

交通量調査の結果では、平日の 17 時台は時間当たり 549 台の交通量があり、また休日でも平均して 400 台以上の交通量が見られた。

この数値は、都市部の一般道路のピーク率が 6.9%とされることから、24 時間交通量でみると 7,960 台となり、また同様に昼夜率の 1.40 からみると、12 時間交通量は 5,690 台となる。

この数値は、宮跡を東西に貫く県道谷田奈良線の 6,160 台/12 時間という交通量と比較してもこれに近い数値であり、相当の交通量といえよう。

※ピーク率：1 日の内、最大時間交通量の 24 時間交通量に対する比率

昼夜率：1 日 24 時間交通量の昼間 12 時間交通量に対する比率

3-4) 利用者意向調査

①利用の傾向

●周辺住民の利用の多さ

利用者の 6 割を奈良市民が占め、奈良県下では 76.7%と 3/4 以上となり、現状では周辺住民の利用が大半となっている。

●多様な階層、グループの利用

宮跡を訪れるのは児童生徒から若者、壮年、高齢者まで多様であり、個人や家族連れ、友人

グループや団体などその形態も様々である。

●リピーターの利用

宮跡を訪れるのは10回目以上という常連者が6割以上を占めており、はじめてという人は17%弱であった。

●自動車中心の来訪

利用交通手段として自動車が5割近くを占めている。一方周辺住民の利用の多さを反映して、徒歩と自転車を併せると25%近くなる。

●比較的短い滞在時間

平均的な滞在時間が2時間未満というものが2/3を占めており、とくに平日はこれが8割近くに達している。

●都市公園的な利用目的

散歩や休養、体操や軽スポーツ、レクリエーション一般といった利用目的が8割以上を占め、歴史鑑賞等を目的とした利用は1割未満である。このため、最も利用されている施設も広場空間であった。

②利用者の意向

●宮跡の現状の高い評価

宮跡を訪れてよかった、まあまあよかったと答えた人が96%おり、ほとんどの人が現状の宮跡に高い評価を与えている。

●再来訪の意向の高さ

またぜひ来たいという積極的な来訪意向を示す人が8割近くおり、機会があれば来たいという人も併せるとほとんどの人がリピート志向となっている。

●広がりや自然性、歴史性に対する満足

のんびり散策できる、自由に遊べる、自然とふれあえるなどが宮跡の満足な点の上位を占める一方、優れた遺跡の分布等も評価されている。

●便益施設、サービス施設に対する不満

ゴミ箱、トイレ、飲食店や売店、駐車場が少ないことに不満は集まっているが、とくに不満はないという人も3割近くいた。

●望まれる多目的利用可能な整備

今後の宮跡の整備タイプとしては、現在の利用形態を反映して、多目的利用のできる施設が望まれている。

●平日と休日で異なる利用

上記のような利用者の意向、また利用形態は、平日と休日では大きな違いがみられ、とくに休日に利用が広域化し、こうした利用者では歴史志向が強まっている。

(2) 特別史跡平城宮跡平成15年度秋季及び冬季利用実態調査

1) 利用実態調査（通年調査）

1-7) 調査概要

①調査の目的

宮跡の通年の利用状況把握の一環として実施した。特に秋季は、宮跡の利用のピークとなっていることが想定される時期であり、詳細な調査を行った。

②調査項目

○利用者数

- ・総利用者数
- ・時間帯別入退園者数
- ・ゲート別入退園者数
- ・主要施設利用状況

○駐車場利用台数

- ・総利用台数
- ・時間帯別利用台数
- ・駐車場別利用台数

③調査手法

宮跡の主要出入口 15ヶ所に調査員を配置し、入園、退園の人数、車両数を 30 分ごとに計測した。

④調査対象エリア

宮跡区域（特別史跡指定区域）のうち、県道谷田・奈良線以北の部分（大膳職等）は利用者数が極端に少なく、また出入りの把握も困難なことから調査から除外し、県道以南のエリアで調査を行った。

⑤調査日時

四季の各調査の実施日時と、当日の天候は次のとおりである。

表Ⅱ-1 各調査の実施日と天候

		実施日	調査時間帯	天候	最高最低気温
春季調査	休日	H15年5月3日(祝)	6:00-18:00	快晴	26.6-12.3
	平日	〃 5月9日(金)	6:00-18:00	快晴	19.8-5.4
夏季調査	休日	〃 7月27日(日)	6:00-19:30	晴	28.1-16.8
	平日	〃 8月7日(木)	6:00-19:00	晴後曇	32.3-23.4
秋季調査	休日	〃 10月26日(日)	7:00-17:00	快晴	19.9-8.8
	平日	〃 10月30日(木)	7:00-17:00	快晴	20.3-8.8
	休館日	〃 10月27日(月)	7:00-17:00	晴	20.7-7.8
冬季調査	休日	H16年2月1日(日)	7:00-17:30	曇後晴	12.2-△2.3
	平日	〃 2月3日(火)	7:00-17:30	晴	6.7-0.0
H8年 秋季調査	休日	H8年10月27日(日)	9:00-18:00	快晴	24.1-15.0
	平日	〃 10月24日(木)	9:00-18:00	快晴	17.7-10.8

各時期の特徴として、春季の休日調査は天候には恵まれたが、直近の休日（4月29日のみどりの日）に朱雀門周辺で「平城（なら）遷都際」が催され、この人出が5万人といわれ、周辺住民の多くがこれに訪れたと思われ、調査日は再度の宮跡訪問が敬遠された様子がかえ、必ずしも春のピークの利用とは言えない状況であった（駐車場管理者の感覚でも、前後の休日のほうが利用が多かったということである）。

夏季調査では、平日調査の終了間際に夕立に見舞われ、19:00～19:30の分について正確なデータが得られなかったため、19:00までの分の集計とした。

秋季調査は全日とも穏やかな天候に恵まれた。

冬季は、休日調査では前日からの厳しい冷え込みがあり、気温も氷点下を記録し、早朝は一面の霜のであった。平日は、朝の冷え込みこそ少なかったものの、日中の気温があがらず肌寒い一日であった。

1-イ) 利用者数調査結果

①総利用者数の変動

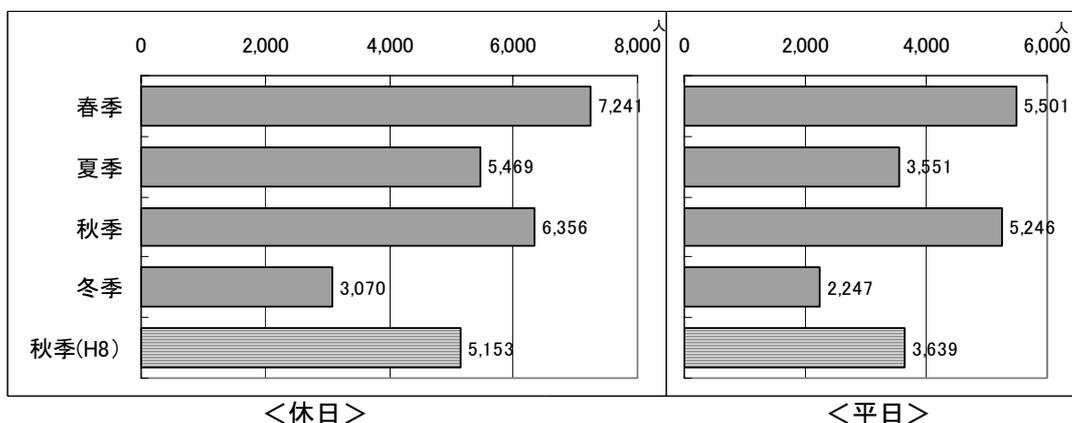
最も利用者数が多いのが春季の休日の7,241人で、秋季の6,356人がこれに続いている。平日も春季、秋季の順はいっしょであるが、その差は少なくなっている。

夏季調査でも、思ったほどの利用の減少はなくて、特に休日利用では秋季調査と比べても14%の減にしかかかっていない。この理由として、炎天下に鍛えるという意味もあって（当事者の弁）、サッカー、ラグビー、野球等のスポーツ利用が多かったことがある。

冬季の利用はさすがに減少しているが、それでも休日には3,000人以上の利用者がおり、休日と平日の利用格差が少ないのも冬季利用の特徴である。この理由としては、季節や曜日に関係なく、散歩や休憩、ジョギングやウォーキング等で宮跡を訪れる固定利用者層が一定割合あること（秋季に実施したアンケート調査結果から、「数え切れない」ほど宮跡を訪れている人が35%いた）と関係している。

秋季調査時に実施した施設休館日（月曜日）の利用者数は3,787人であり、通常の平日と比べて28%の減少となっており、見学施設の閉鎖の影響は如実に表れている。

なお、平成8年の秋季調査と比べると、調査時間帯が異なるために単純な比較はできないが、休日で20%、平日で48%の利用増があり、特に平日の増加が大きい。



図Ⅱ-16 季節別、曜日別入園者数

②時間帯別の入退園傾向

全体に共通する特徴として、休日は午後1～3時頃にピークのある緩やかな利用の波があり、平日は、終日各時間帯ともほぼ均等な利用がある点である。

入退園の関係では、入園は10時前後から緩やかに増加するが、退園は夕方近くに集中する点である。

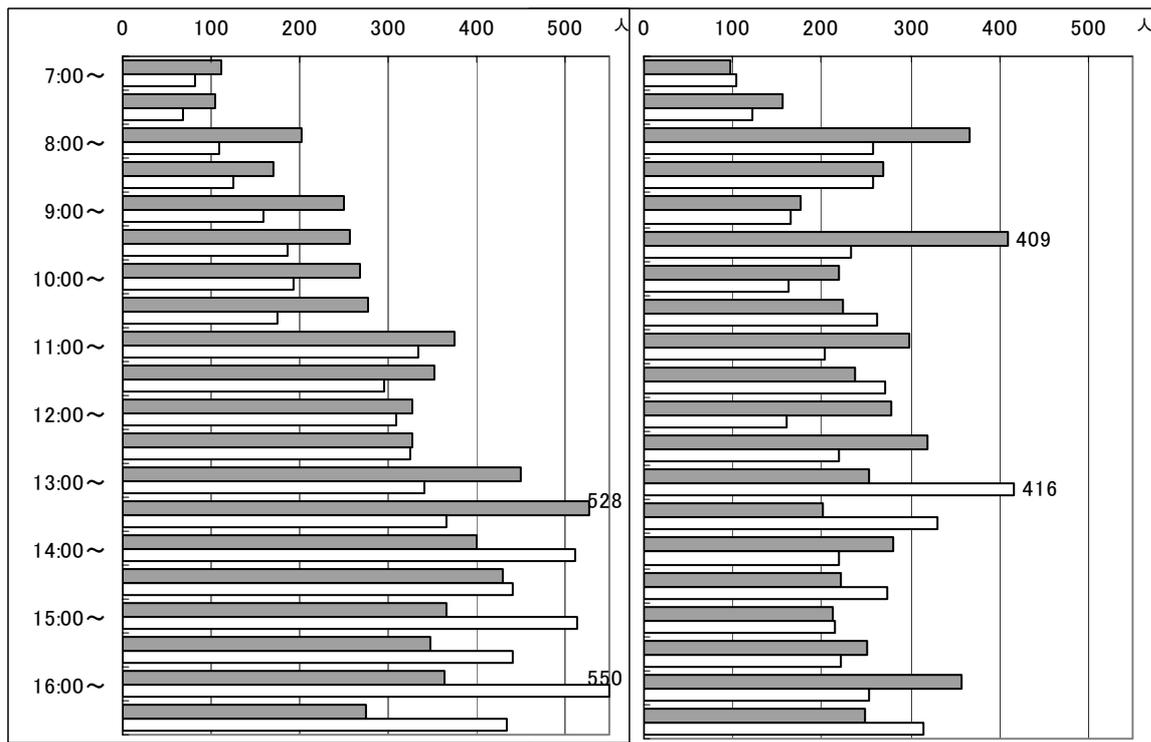
また、全ての季節、調査日で、朝8～9時頃に200～300人の入園があるが、これは通勤・通学の通り抜け利用と思われる。

季節別の特徴をみていくと、春季の特徴としては、入園、退園とも突出する時間帯があることである。特に、平日では30分間に628人の入園、747人の退園を数えているが、これは遠足等の団体の動きによるものである。

夏季は調査時間帯を午後7時30分まで（平日は雨のため7時まで）延長しているが、休日のピークが午後3時以降にずれ込んでおり、これは日中の厚さを避けてのことと思われる。また、夏季では朝6時の調査開始時点、夕方7時30分の終了時点で、それぞれ100人前後が滞在しているのも特徴である。

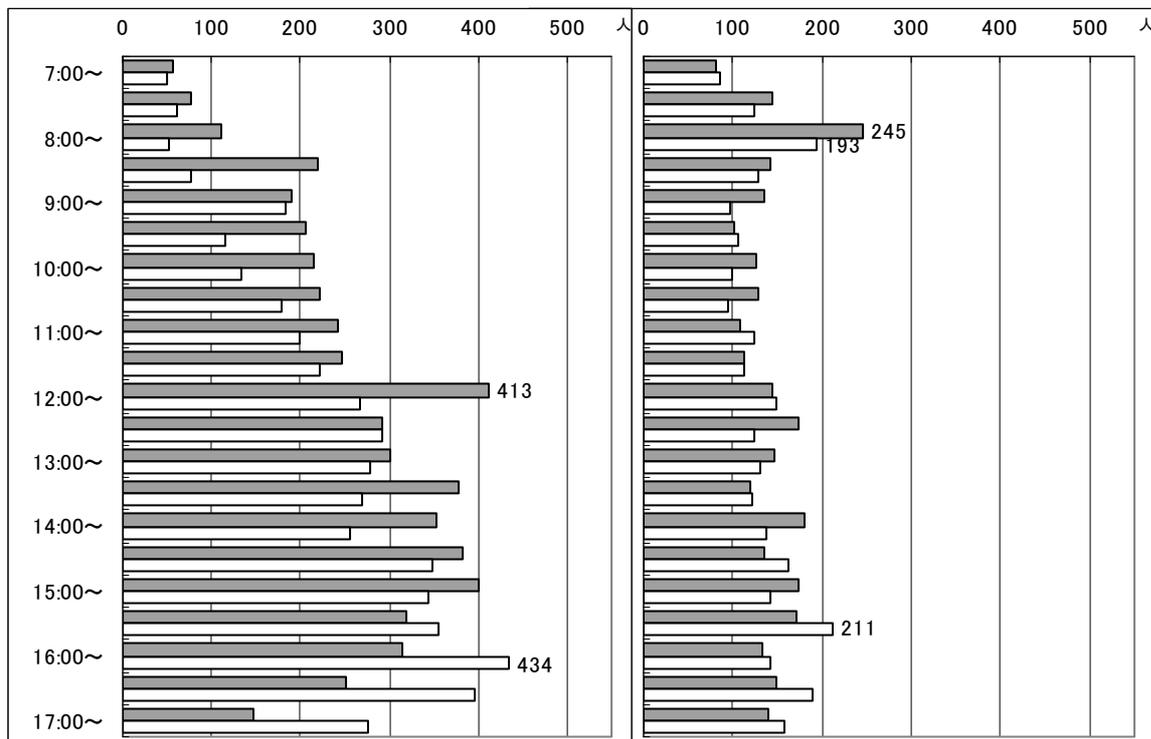
秋季は、春季とおなじような傾向を示すが、団体利用が春季ほどではないため、出入りが500人を越すような時間帯はない。

冬季は夏季とほぼ類似した傾向を示している。



＜秋季：休日＞

＜秋季：平日＞



＜冬季：休日＞

＜冬季：平日＞

図Ⅱ-18 季節別、曜日別、時間帯別入退園者数その2（秋冬）

③ゲート別の入退園傾向

全体的にみて、休日は全ての季節でF（遺構展示館東）の出入りが多く、以下B（資料館北）、L（朱雀門）ないしはA（佐伯門）の順となっている。

一方で平日は、B（資料館北）がF以上に多くなっている。この理由として、平日の利用には学校団体等の利用が多く、この利用拠点が資料館となっているためにBが増加する点、通勤・通学の通り抜け利用が最も多く観察されているのが、近鉄大和西大寺駅に近いBである点などが考えられる。

また、地元の間しか利用しないと思われるG（宮跡東側里道）は各季節とも100人前後の出入りがあり、これは通り抜けや散歩等の固定的な利用と思われる。

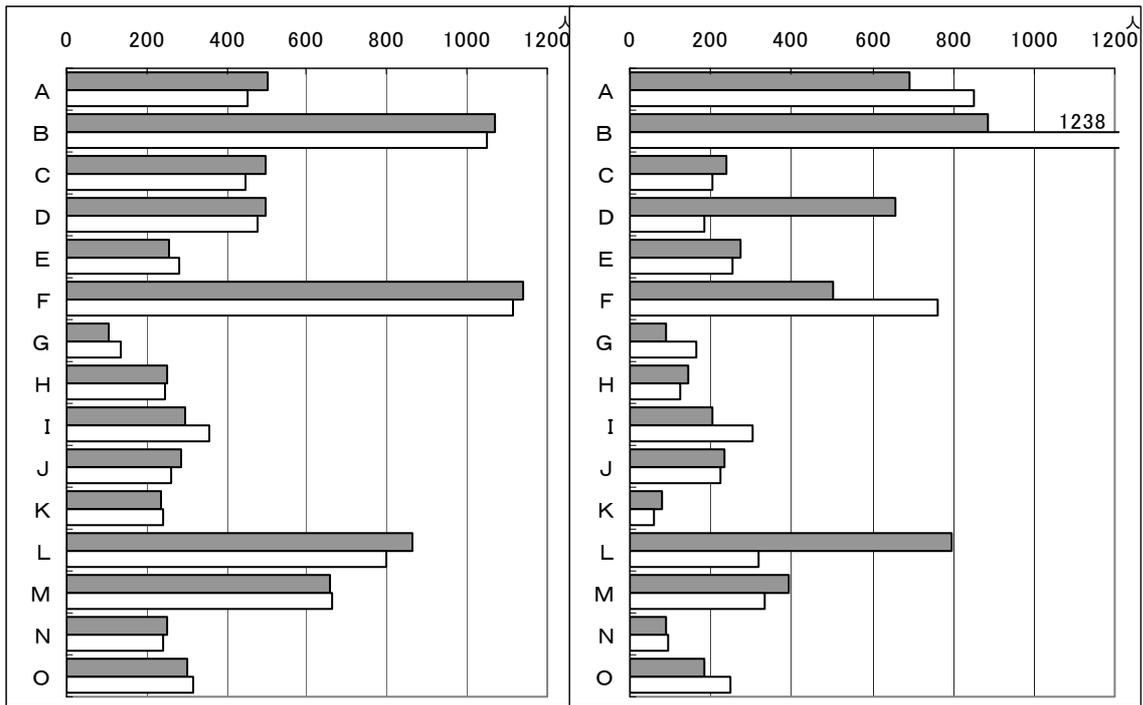
春季をみると、入園者数と退園者数が大きく異なっているゲートがあるのが特徴である。これは、遠足等の団体の動きに起因している。

例えば、朱雀大路にバスを駐車してL（朱雀門）から入園し、宮跡内の各施設を見学した後、迂回したバスがB（資料館北）ないしはF（遺構展示館東）で待ち受けて退園していくという傾向が見受けられた。

夏季は、各ゲートの利用差が少なく中で、休日のM（朱雀門西）の入園が最高、平日でも2位となっている。これは、入園のピークが午後遅くにシフトする中で、夜間も利用できる朱雀門横の駐車場の利用が増えているためと思われる。

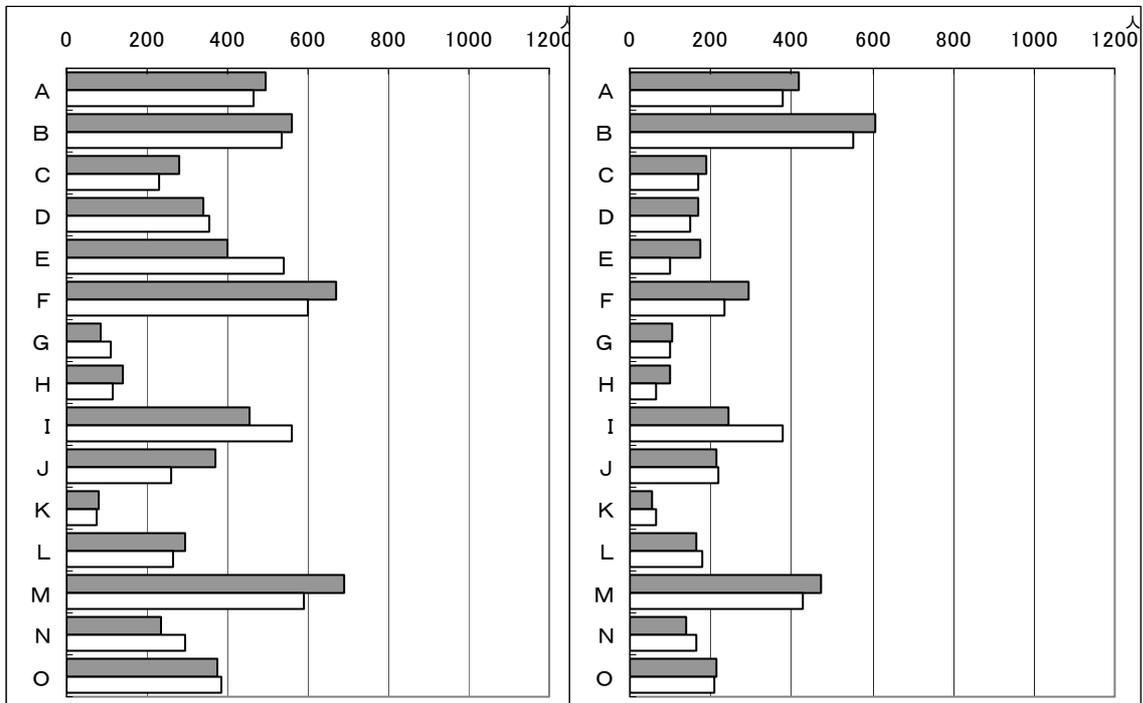
秋季は、春季と類似するが、入退園者数の差があるゲートは春季ほどはみられない。これは、学校団体等の利用であっても、春の遠足と異なり秋は修学旅行が多くなり、この場合は入退園ゲートが共通となることが多いためである。

冬季は夏季と類似するが、休日のF（遺構展示館東）への集中が目立つ。これは、冬季に寒さを敬遠してか自動車利用台数が最も増加している点と関係していると考えられ、最も駐車容量の多いFが利用されている。



<春季：休日>

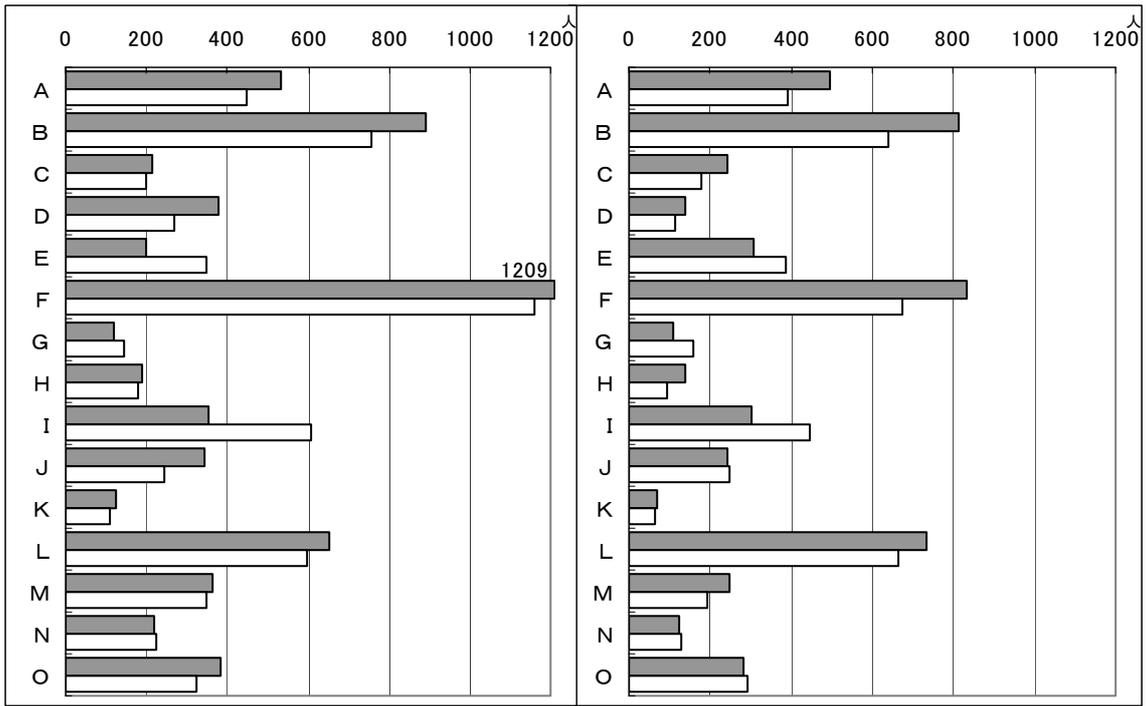
<春季：平日>



<夏季：休日>

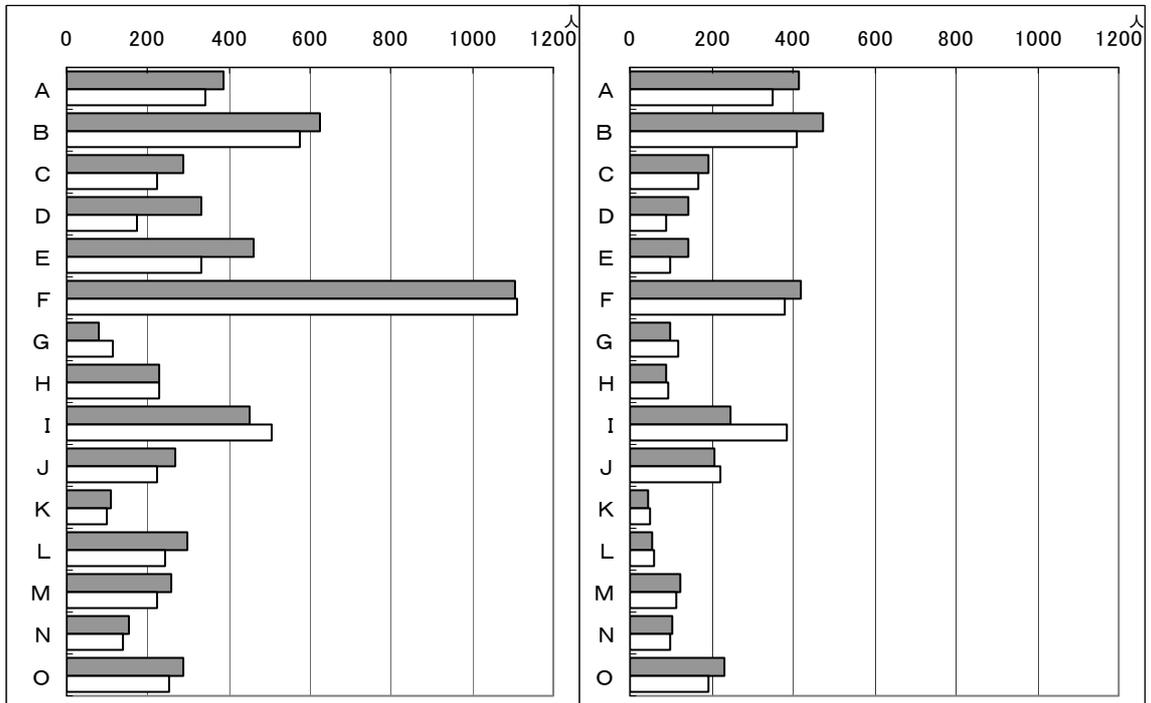
<夏季：平日>

図Ⅱ-19 季節別、曜日別、ゲート別入退園者数その1 (春夏)



＜秋季：休日＞

＜秋季：平日＞



＜冬季：休日＞

＜冬季：平日＞

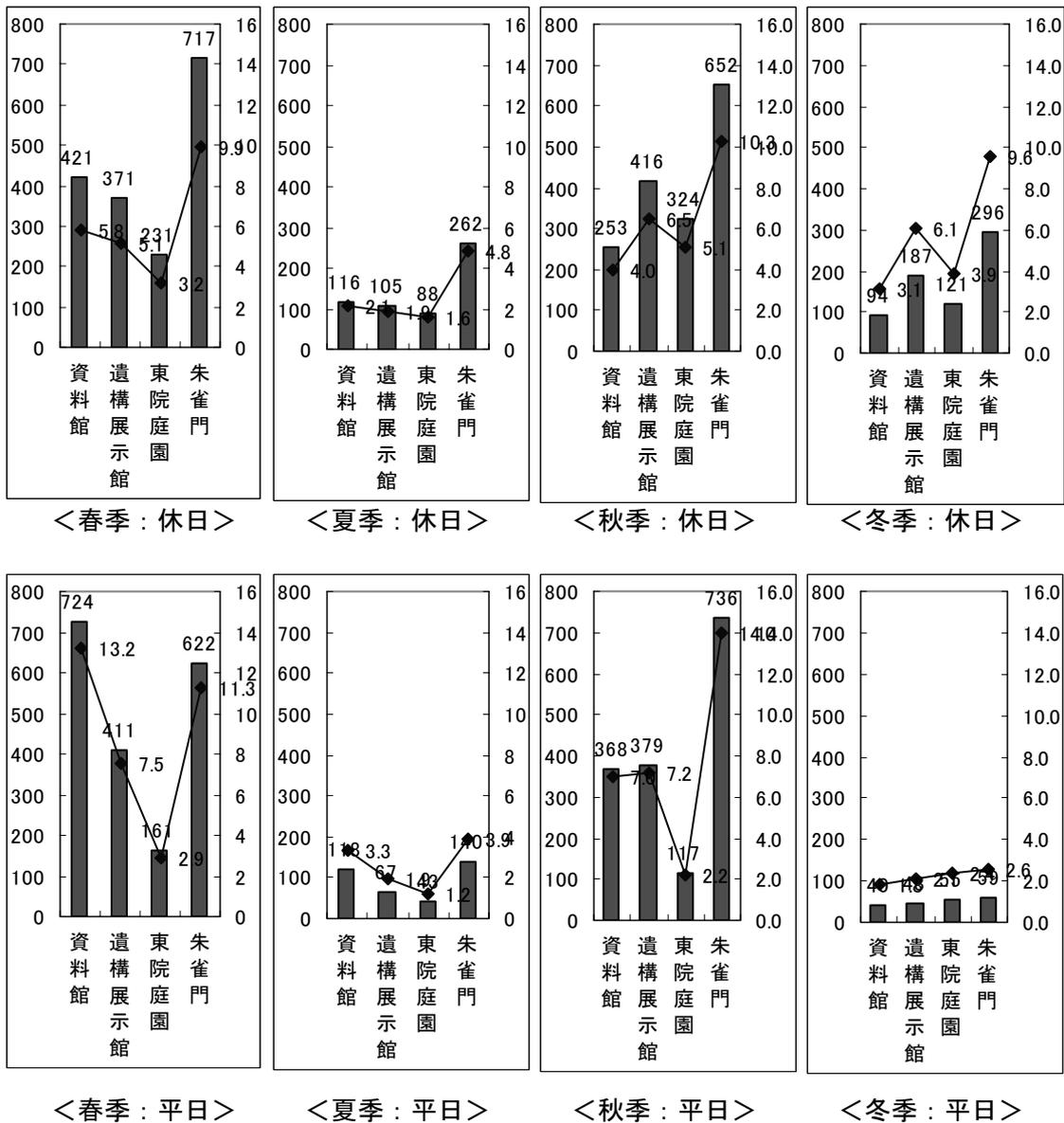
図Ⅱ-20 季節別、曜日別、ゲート別入退園者数その2（秋冬）

④主要施設の利用状況

見学者数が把握されている3施設と、今回調査を行った朱雀門の利用者数を比較すると、春季の平日を除いて朱雀門の利用が最も多い。春季の平日に資料館利用が多いのは、学校団体等の遠足利用によるものである。

季節別では、春秋の行楽シーズンに、休日・平日を問わず、各施設の利用が増加している。

宮跡利用者に対する利用割合をみるとは、季節や曜日、そして施設によって大きく異なり、春季の平日の資料館や、秋季の平日の朱雀門では入園者の13~14%が利用しているが、夏季や冬季、中でも冬季の平日は、各施設とも入園者の3%未満の人しか利用していない。



※棒グラフが施設利用者数 (人)、折れ線グラフが全利用者数に対する各施設の利用割合 (%)

図Ⅱ-21 季節別、曜日別、主要施設利用者数

⑤団体利用の特徴

今回実施した調査の中では、特に春季と秋季の平日に、多くの団体利用が観察された。

中でも、春季には、小学生や幼稚園児などの遠足利用を中心とした団体が多くみられ、目視しただけでも32組、1,700人近くの団体があった。

この特徴として、バスのほかに徒歩利用も多く、出入口の異なる入退園があり、滞在時間が比較的長いという3点がある。

交通手段としては、バス利用組は大阪府東部などの宮跡からの交通利便性の高い地域からの来訪が多く、徒歩組は、地元小学校のオリエンテーリングや徒歩遠足が多かった。

出入口の異なる入退園としては、最も多かったのが、朱雀門から入って資料館や遺構展示館駐車場から出ていくという形態であるが、徒歩組でも、A（佐伯門）から入ってB（資料館北）から出る、あるいはD（内裏東）から入って同じくBから出るというものもあった。

3点目の滞在時間の長さであるが、遠足などでは基本的に弁当を持参しており、午前中に資料館などを見学した後、昼食をはさんで自由時間があり、その後集合して退園していくという形が多く、少なくとも11時～14時の間は大半の学校団体が滞在していた。

一方で、秋季の団体利用は、修学旅行が多くなる点が特徴である。

修学旅行の場合、平城宮跡は目的施設ではなく立ち寄り施設のひとつとなるため、滞在時間は短く、ほとんどが朱雀門のみの見学であり、それも宮跡内に足を踏み入れることなく、門の前で記念撮影をしてそのまま帰る場合もあり、この場合は宮跡利用者としてもカウントされていないことになる。

資料館などを利用する修学旅行団体は、奈良・京都方面を訪れている中高生の団体で、5～7人程度のグループ単位で行動しているため、団体として把握されにくい面もある。

このような学校団体のほかに、宮跡内で目立つ団体・グループとしては、各種のスポーツ団体、趣味の活動を行うグループがある。

趣味の活動グループは、宮跡ならではの活動を行うものが多く、その一例がほとんど毎日観察される模型飛行機のグループや毎月第1日曜日に例会を行っている凧揚げのグループで、これらは宮跡の広さと障害物のなさを生かした活動といえる。

また、グループで訪れての楽器練習や演劇練習（発声練習）も、自由に大きな音を出せる空間として宮跡が利用されている。

このようなグループの活動場所は、他の利用者の少ない場所に自ずから限定されており、棲み分けがなされている。

1-ウ) 駐車場利用台数調査結果

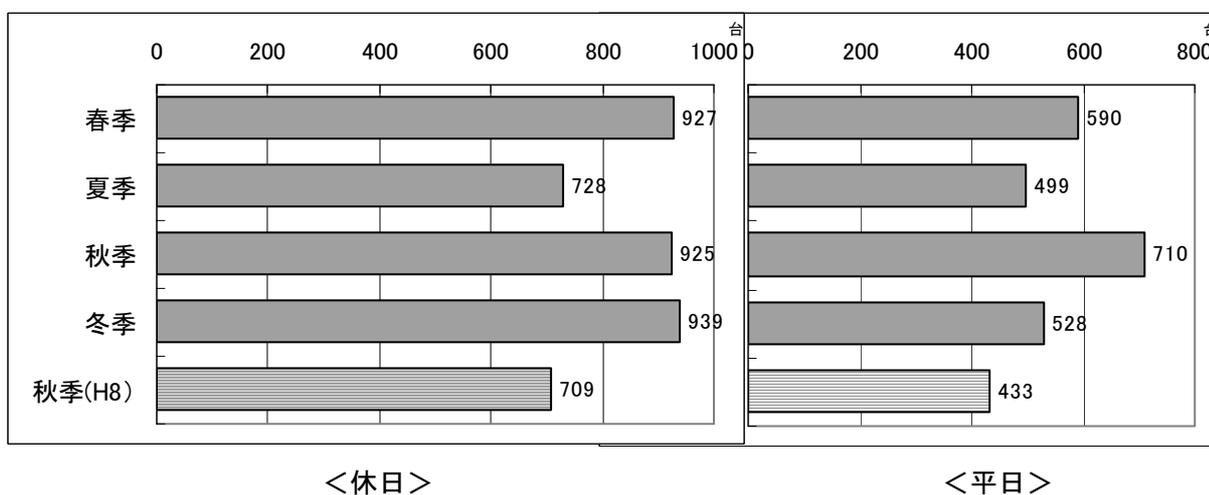
①総利用台数

休日の入園者数は春季(7,241人)、秋季(6,356人)、夏季(5,469人)、冬季(3,070人)の順であるが、駐車台数をみると、わずかではあるが冬季が、秋季・春季をおさえて最大となっている。

これは、自動車利用の入園者数が他の季節よりも増えたというよりは、他の季節は徒歩や自転車で訪れる人が、寒さを避けて自動車利用に切り替えたという感触が得られた。

平日では、春季と秋季の入園者数は5,200~5,500人でほぼ同じであるが、秋季のほうが駐車台数が多いのは、春季は団体のバス利用が多かったためである。

なお、平成8年の秋季調査と比べると、駐車場の利用時間帯という意味ではほぼ同じであるにも関わらず、休日で1.3倍、平日で1.6倍に増加している。



図Ⅱ-22 季節別、曜日別駐車台数

②時間帯別の駐車状況

平城宮跡の駐車場容量は次のとおりである。バスが乗り入れるのは平日で、利用のピーク日は日祝日であるため、バス駐車スペースも利用すると420台、宮跡内の他の駐車可能箇所までをカウントすると最大510台程度の駐車が可能である。

なお、資料館北及び遺構展示館東の駐車場はゲートの時間管理を行っており、基本は9～16時30分の開場であるが、管理員の裁量で、朝は7時ないしは8時には開場し、夕方まで17時程度までは開場している。出入口が遺構展示館駐車場と同じとなる東院庭園駐車場もこの制約を受ける。

表Ⅱ-2 宮跡内の各駐車場、駐車可能スペースの容量

名称	バス	乗用車	乗用車換算
資料館北	5台	24台	50台
遺構展示館東	10台	120台	170台
東院庭園	5台	24台	50台
朱雀門西	—	150台	150台
その他	—	—	90台
合計	20台	318台	510台

※朱雀門西の150台は、駐車スペース約3,800㎡を25㎡/台としてカウントして算出

※その他は、内裏東側の園路、朱雀門西側の広場、玉手門周辺の広場など日常的に利用されている場

全ての季節に共通するのが、入園者の傾向と同様に、休日は午後にピークのある緩やかな波を描き、平日はこれがよりフラットになる点である。

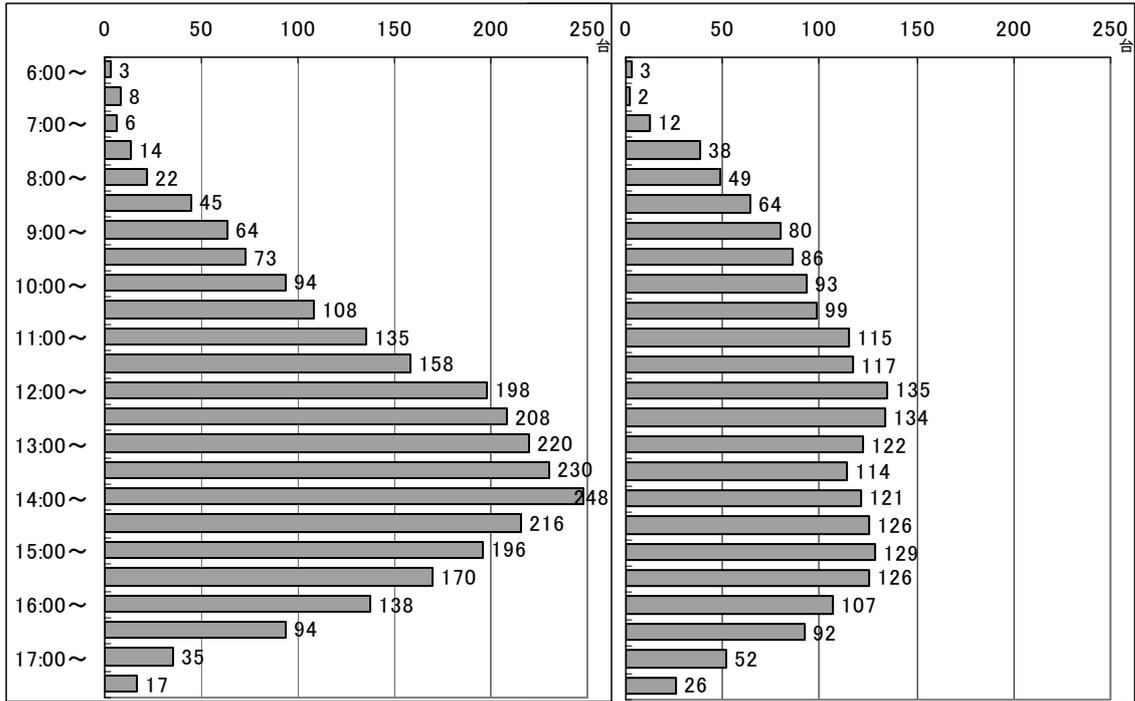
季節別では、春季は特に午後の時間帯に利用が集中し、14:00台には248台の駐車という最大値を記録し、その後急速に減少している。一方で平日は、11:00～16:00の間は100台強という状態が続いている。

夏季は、最も利用台数の少ない時期であり、休日の利用のピークでも150台程度と、春季よりも100台ほど少なくなっている。14:00以降は早くも減少に転じ始めたのは、暑い盛りを敬遠してのことと思われる。また、平日はほとんどの時間帯で70台前後の利用がコンスタントに続いている。

秋季は、休日、平日とも春季とほぼ同じ傾向を示す。

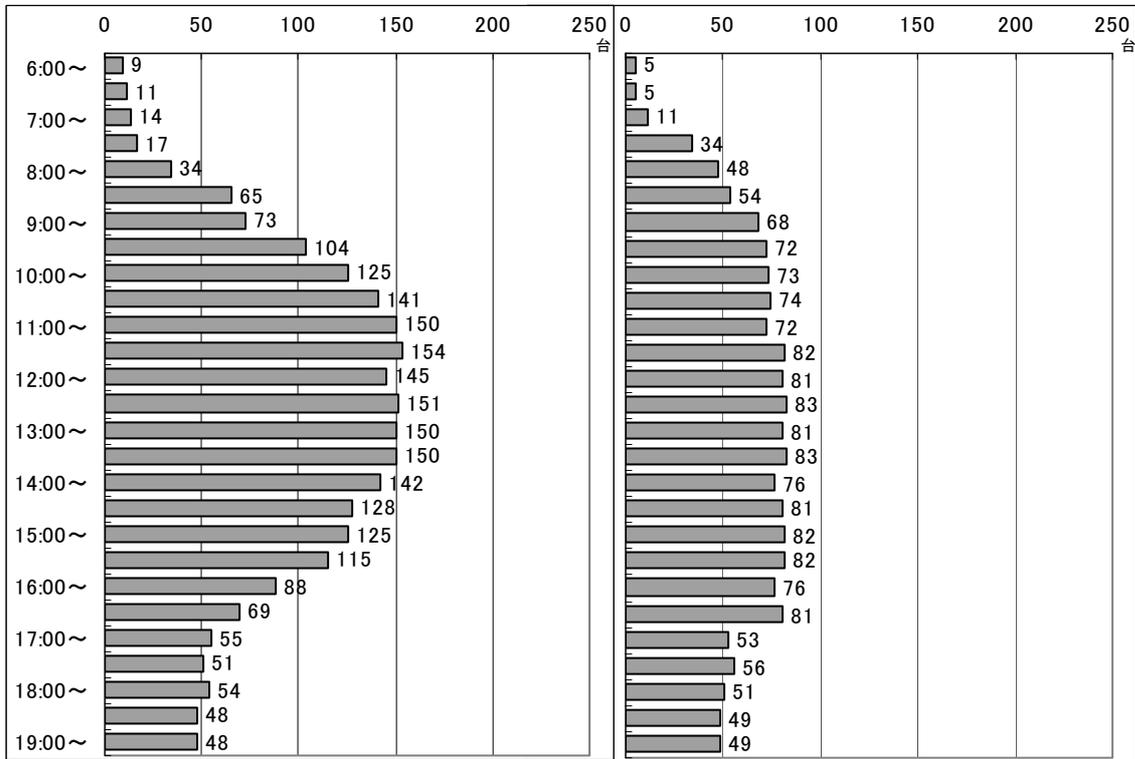
冬季は、総駐車台数の項でも述べたように、利用者数の割に駐車台数（自動車利用での来訪者数）が増加する時期であり、150台以上駐車している時間帯が10:00～16:00まで続いている。

なお、宮跡の駐車容量が510台、4ヵ所の駐車場のみでも420台であるため、これが満杯になることはどの時間帯でもなかったこととなる。



<春季：休日>

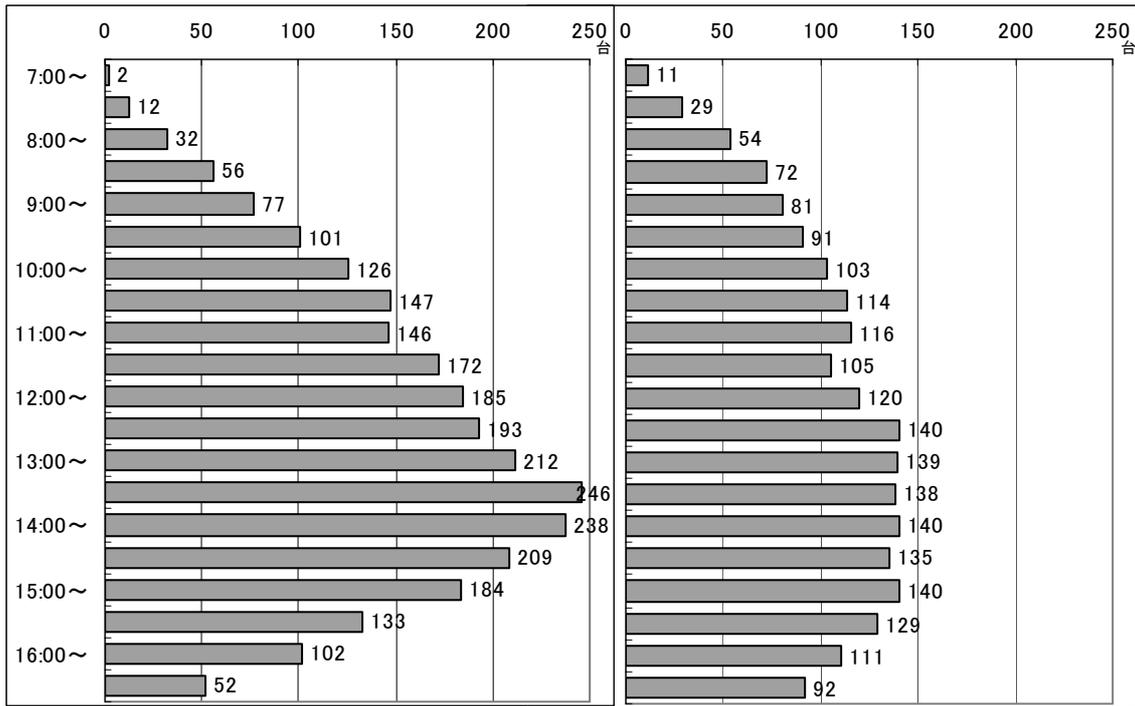
<春季：平日>



<夏季：休日>

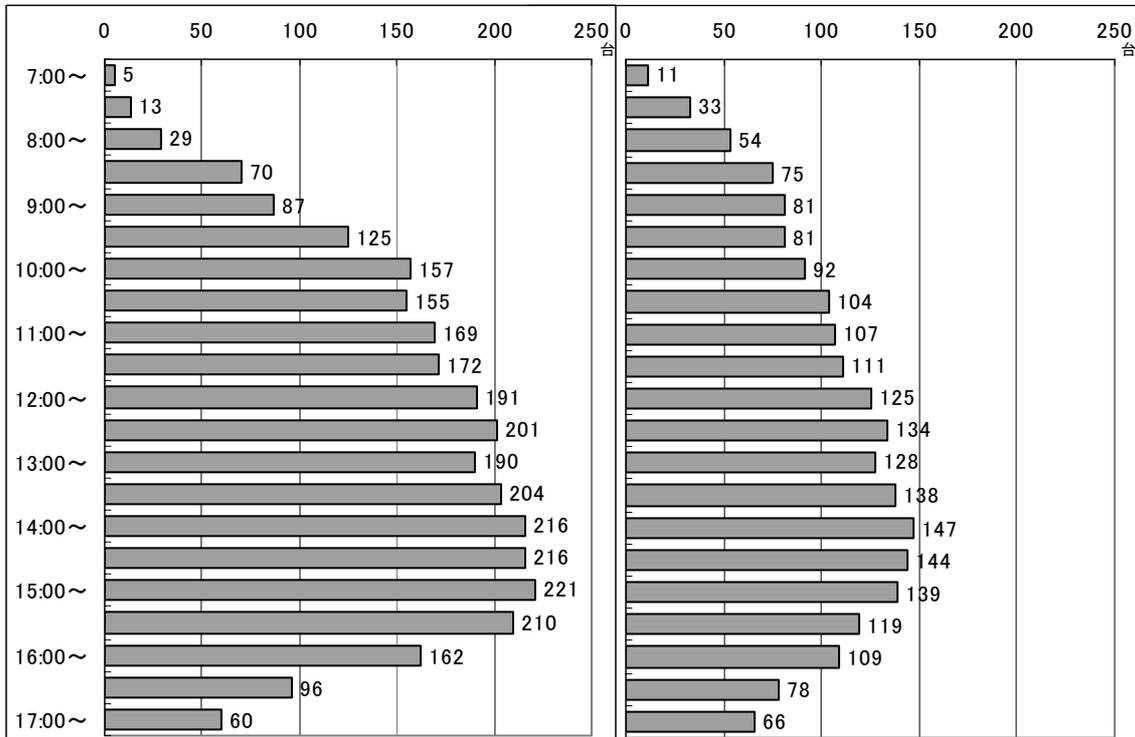
<夏季：平日>

図Ⅱ-23 季節別、曜日別時間帯別駐車台数その1（春夏）



＜秋季：休日＞

＜秋季：平日＞



＜冬季：休日＞

＜冬季：平日＞

図Ⅱ-24 季節別、曜日別時間帯別駐車台数その1（秋冬）

③ 駐車場別の利用傾向

駐車場別で、最大の利用があったのは「冬季の休日の遺構展示館東」駐車場で、延べ 389 台の利用があった。同駐車場の容量が、バススペースを含めても 170 台であるため、ゆうに 2 回転以上の利用がなされたことになる。ただし、先にも述べたように、冬季は来訪者の宮跡滞在時間が短くなる傾向もあったため、満車状態になることは一度もなかった。

遺構展示館東は、他のどの季節、曜日でも利用が最も多いが、宮跡全体に占める利用率でも冬季が高まり、特に平日は 45.3% と最高を記録している（図Ⅲ-1-10 参照）。

資料館北駐車場は、比較的コンスタントな利用がある。最も利用が多かったのは「春季の休日」と「秋季の平日」にともに 144 台が記録され、「冬季の休日」の 138 台がこれに続いている。ここの容量は 50 台であり、一部の時間帯では入場制限も行われた。資料館北駐車場の利用率が最も高まるのは「夏季の平日」で、これは遺構展示館東駐車場の利用減少による相対的なものである。

東院庭園駐車場は、休日と平日の利用格差が最も大きい駐車場である。これは、他の駐車場が見学目的の来訪以外にも利用されているのに対し、ここは東院庭園の見学目的の利用が多いため、こうした来訪が多い休日に増加していると思われる。

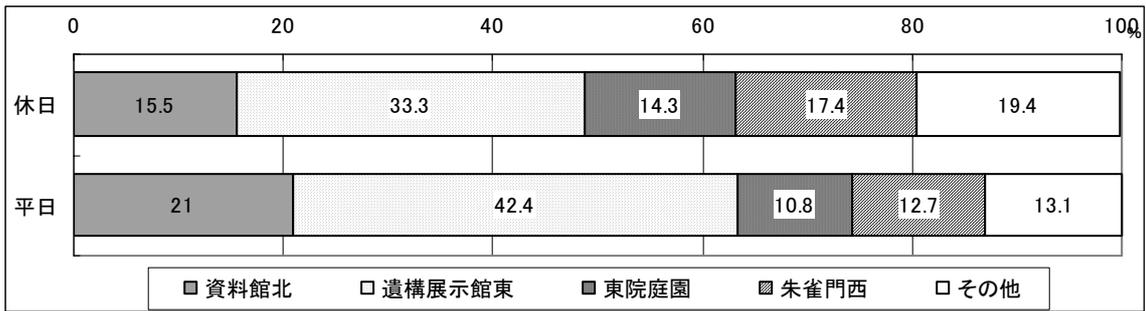
朱雀門西駐車場は、休日は季節を問わない利用があるが、平日は少なくなる。唯一、時間管理がなされていないため、夕方からの入車も多い。

その他では、休日は四季とも遺構展示館東に次ぐ利用があり、この半数以上を内裏東側の園路への駐車が占めている。

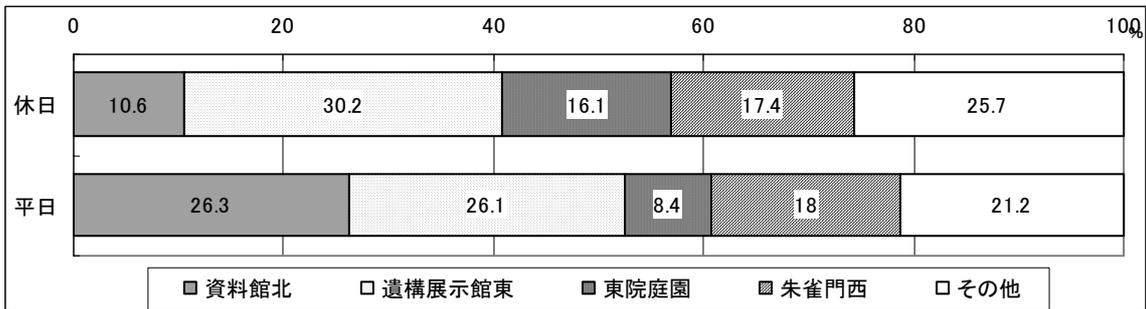
平成 8 年調査との比較では、遺構展示館東駐車場の多さが目立つが、これは東院庭園駐車場が整備前のことであり、現在はこれが 2 ヶ所で分担されていると考えられる。

表Ⅱ-3 季節別、曜日別の各駐車場の延べ駐車台数

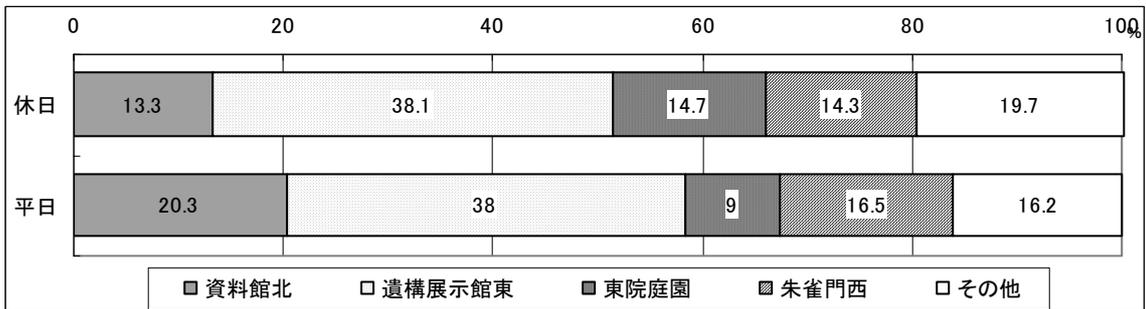
	駐車場	春季	夏季	秋季	冬季	H8年秋季
休日	資料館北	144	77	123	138	161
	遺構展示館東	309	220	352	389	419
	東院庭園	133	117	136	140	—
	朱雀門西	161	127	132	115	—
	その他	180	187	182	157	129
	合計	927	728	928	939	709
平日	資料館北	129	131	144	114	157
	遺構展示館東	250	130	270	239	256
	東院庭園	64	42	64	65	—
	朱雀門西	75	90	117	54	—
	その他	77	106	115	56	20
	合計	590	499	710	528	433



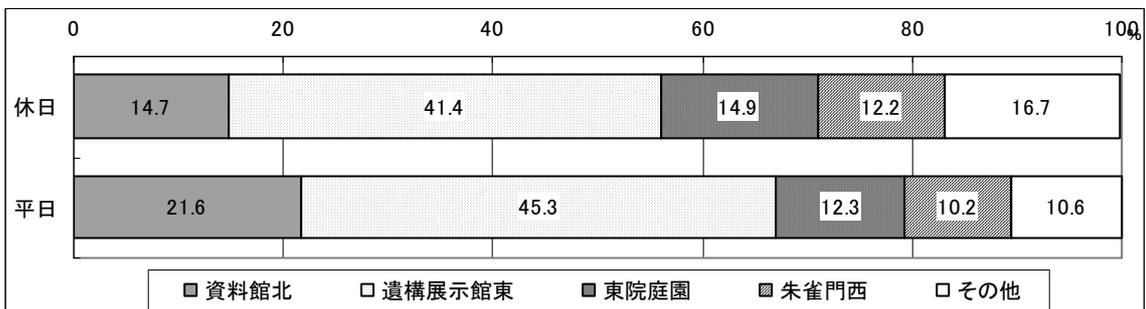
<春季>



<夏季>



<秋季>



<冬季>

図Ⅱ-25 季節別、曜日別各駐車場の利用割合

④バス駐車状況

駐車場のバス利用は夏季と冬季にはほとんどみられず、春季と秋季では、春季の方が多かったが、それでも平日で10台、休日で6台の利用であった。

春季の平日の団体客数は1,672人を数えており、これに対してバス利用が少ないのは、周辺学校や幼稚園の利用では徒歩もあったことに加え、朱雀大路に駐車しての入園が相当数あったことによる。

バス利用が可能な駐車場は、資料館北、遺構展示館東及び東院庭園の3カ所である。

この利用傾向をみると、資料館北駐車場は、概ね30分～1時間のあいだ駐車しており、団体の資料館見学に合わせた利用となっている。なお、今回の調査では確認されなかったが、資料館北駐車場では、一般車両の駐車が多いと、バスは宮跡内に誘導して、資料館南側に駐車させている。

遺構展示館東駐車場は、遺構展示館の見学目的というよりも、朱雀門からの入園者を待ち受ける形で利用されることが多く、運転手などの休憩も兼ねた駐車待機として平均2～2時間30分の駐車があった。

遺構展示館駐車場へのバスの駐車は、秋季に一度だけ確認されたが、これは客を乗せない研修目的の観光バスで、例外的な利用であった。

2) 利用意向調査（秋季調査）

2-7) 調査の概要

①調査手法

官跡内の主要な利用拠点（見学施設や主要園路沿い、広場等）に調査員を配置し、面談による聞き取り方式で調査を行った。

②調査日時

天候不順等もあって、休日・平日とも複数日に分けて実施した。

休日調査：平成15年10月26日（日）、11月2日（日）

平日調査：平成15年10月30日（木）、11月12日（水）、11月13日（木）、
11月14日（金）、11月21日（金）

③回収状況

サンプル数は平成8年度のアンケート調査の実施状況（474票回収）も参考に、回収目標数を500票と設定した。

結果は休日261票、平日259票、計520票を回収した。

《特別史跡平城宮跡 利用者意向調査票》

1. 平城宮跡に来られたのは、今回を含め何回目ですか。

1 はじめて	2 2～4回目
3 5～10回目	4 10回以上
5 数え切れない	

1-1. 上記で「はじめて」とお答えの方にうかがいます。宮跡に関する情報はどこで入手されましたか。

1 市販のガイドブック	2 観光パンフレット
3 新聞やテレビ、ラジオ	4 旅行代理店や輸送機関
5 友人・知人の口コミ	6 インターネット
7 看板や案内標識	8 その他 ()
9 以前からあることは知っていた	

2. 今回、宮跡を訪れた主な目的はなんですか。

1 歴史学習や体験	2 観光
3 散歩や休養	4 ショッピング、ウオーキング
5 サッカーや野球	6 子供の遊びやクイズ
7 通り抜け(運動や買物)	8 趣味の活動 ()
9 その他 ()	

※下線の項目を選ばれた方は、裏面の回答もお願いします。

3. 宮跡にはどのくらい滞在される予定ですか。

1 30分未満	2 30分～1時間程度
3 2～3時間	4 ほぼ半日
5 ほぼ一日	

4. 今回利用された(利用予定の)場所や施設はどれですか。該当するものをいくつでも選んで下さい。

1 資料館	2 遺構展示館
3 東院庭園	4 朱雀門
5 大極殿復原公開施設	6 その他見学施設 ()
7 広場	8 グラウンド
9 その他 ()	10 特になし

5. 宮跡内の主な移動手段はなんですか。

1 徒歩	2 自転車
3 レンタサイクル	4 バイク
5 自家用車	6 タクシー
7 貸切バス	8 その他 ()

6. 平城宮跡を訪れた印象はどうですか。

1 非常によかったです	2 まあまあよかったです
3 あまりよくなかったです	4 よくなかったです

7. 宮跡の道路状況や交通に関して、問題と思われることから次のなかからいくつでも選んで下さい。

1 宮跡の場所や入口を示す案内板や標識が不足
2 広すぎて徒歩での移動が大変
3 起伏や未舗装道路のため、高齢者や障害者の移動が大変
4 通過道路(みやと通りなど)があつて横断が危険
5 鉄道(近鉄電車)の分断があつて横断が不便
6 道路や鉄道が歴史的な景観を阻害している
7 その他 ()

8. 以下の施設について、今後、宮跡で整備が必要と思われるかどうか、「必要」「どちらでも」「不要」の3つの中からそれぞれ選んで下さい。また、これ以外に必要と思われる施設がありましたら教えて下さい。

①大規模な復原建物	必要	どちらでも	不要
②本格的な博物館	必要	どちらでも	不要
③総合案内所	必要	どちらでも	不要
④屋内休憩所	必要	どちらでも	不要
⑤ベンチやあすまや	必要	どちらでも	不要
⑥トイレ	必要	どちらでも	不要
⑦売店	必要	どちらでも	不要
⑧喫茶・レストラン	必要	どちらでも	不要
⑨ゴミ箱	必要	どちらでも	不要
⑩駐車場	必要	どちらでも	不要
⑪園内巡回バス	必要	どちらでも	不要
⑫レンタサイクル	必要	どちらでも	不要
⑬その他必要な施設	必要	どちらでも	不要

9. 今後、宮跡を整備していくときに、どのような姿で整備されることを望まれますか。

1 あまり手を加えず、現在の自然や歴史資源を保存する
2 積極的に建物等の復原を行い、当時の面影を再現する
3 一部の施設は復原し、公園的利用が可能な整備を図る
4 その他 ()

この質問以降の問10、問11は、問2で宮跡を訪れた目的が「3」～「9」とお答えの方にうかがいます。

10. 平城宮跡を利用して、歴史や文化に興味を持たれましたか(興味を持たれたことがありますか)。

1 大いに興味を持った(持ったことがある)
2 ある程度興味を持った(持ったことがある)
3 あまり興味はわかない(わいたことがない)
4 全く興味はわかない(わいたことがない)

11. 平城宮跡について、ご存じのことから全に○をつけてください。

1 地下に建物跡や土器、瓦等が埋まっている
2 奈良時代の史跡である
3 天皇が住み、貴族や役人が活動していた
4 当時の日本で最高級の建物や庭園があった

12. これ以降は、あなたご自身のことについてうかがいます。性別とお年は何歳代ですか。

①性別:(男・女) ②年齢:() ③年代()

13. お仕事はなされていますか。

1 有職者(パート、アルバイトも含む)	
2 主婦	3 学生
4 無職、定年退職	5 その他 ()

14. お住まいはどこですか(市町村名まで)。

1 奈良市内 ()
3 県外 ()

15. ご自宅から宮跡までの主な(最も利用距離の長い)交通手段をひとつ選んで○を、宮跡までの交通手段をひとつ選んで△をつけて下さい(○と△は重なってかまいません)。

1 徒歩	2 自転車	3 バイク
4 自家用車	5 タクシー	6 路線バス
7 貸切バス	8 近鉄電車	9 JR
10 飛行機	11 その他 ()	

16. 平城宮跡にお越しになって感じられたこと、整備に管理に関して希望されることなどがありましたら、自由にお答え下さい。

※問2で「5」～「9」とお答えの方は以上で終了です。ありがとうございました。

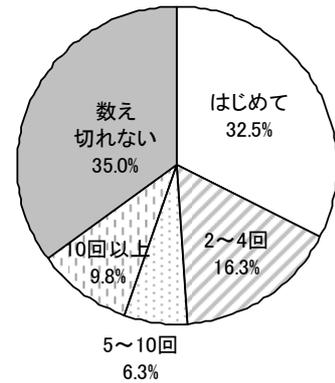
図 H-26 アンケート調査票(一部)

2-1) 意向調査結果

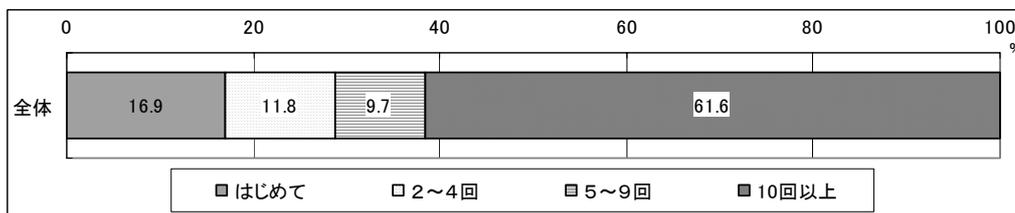
①来訪回数

全体では、「はじめて」が 32.5%と、前回調査（平成 8 年）の 16.9%と比べて大きく増えている。替わって、「10 回以上」+「数え切れない」がほぼ同数減少している。

来訪目的別でみると、「はじめて」の人は「観光」で 73.5%、「歴史学習や体験」で 52.1%と多く、「ジョギング、ウォーキング」や「通り抜け」の人では「数え切れない」が 90%以上となっている。



図Ⅱ-28 来訪回数



図Ⅱ-29 平成8年度調査での来訪回数

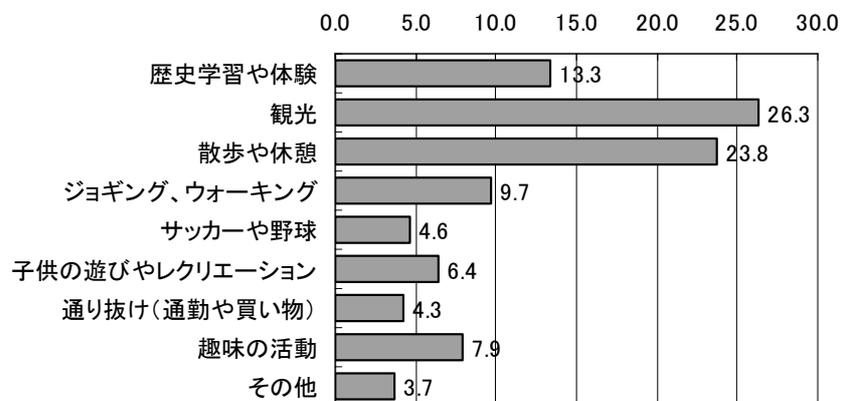
②来訪目的

「観光」26.2%、「散歩や休憩」23.7%、「歴史学習や体験」13.7%の順となる。

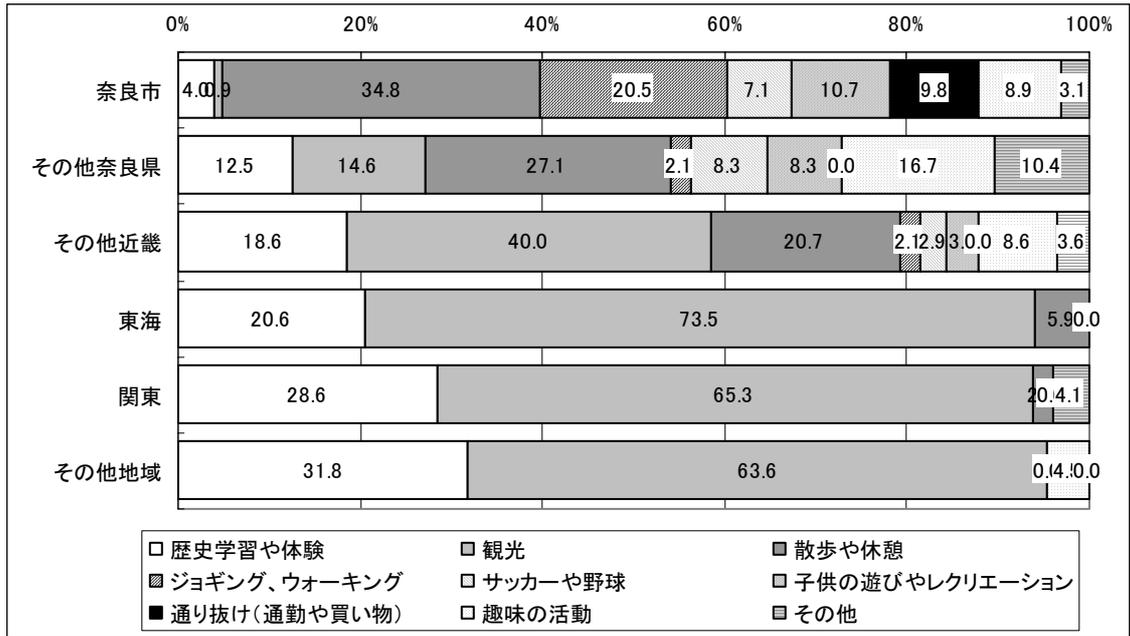
前回調査と比べ、「散歩や休憩」が 50.2%から 23.7%へと半減し、今回新たに設けた「観光」が 26.2%と首位となっているが、これは利用構造の変化よりも、調査対象のシフト、すなわち、資料館や遺構展示館周辺に調査員を重点的に配置し、歴史学習目的等の来園者からの回答を得ることを重視したことによる大きいと思われる。

居住地別では、「東海」「関東」などの遠隔地は「観光」目的、「奈良市」は「散歩や休憩」、「奈良県」では「散歩や休憩」のほか「観光」や「歴史学習や体験」もみられた。

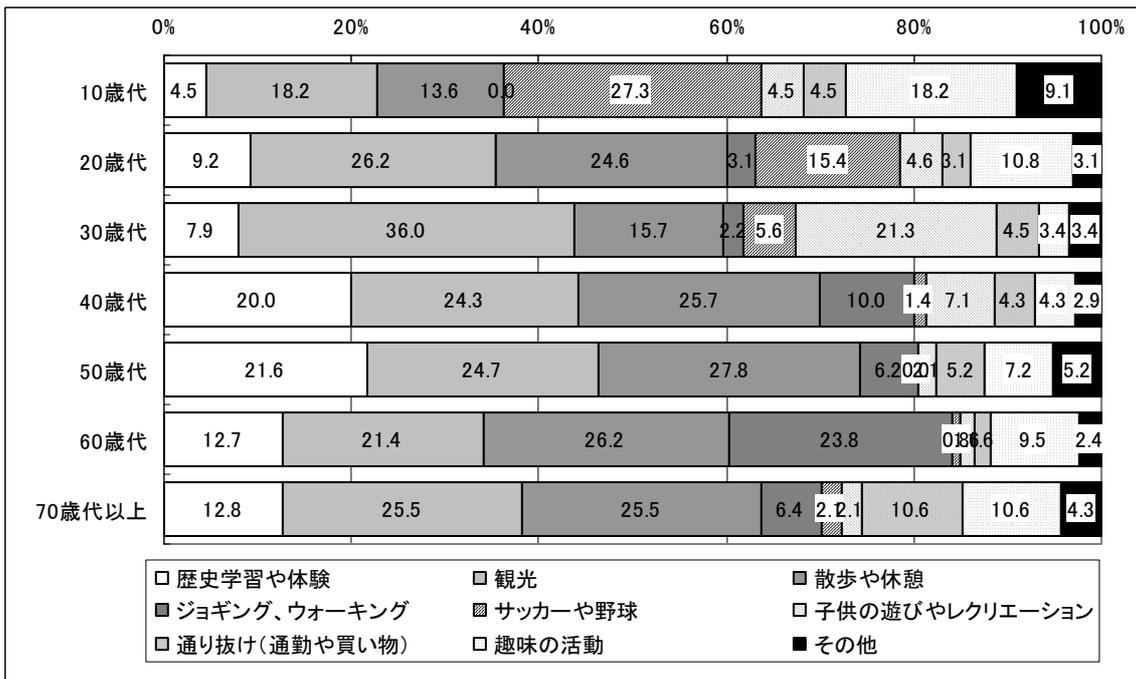
年齢階層別では、「歴史学習や体験」は「40 歳代」や「50 歳代」に多いが、「観光」は幅広い年齢層にみられた。「散歩や休憩」も同様に各層に及んでいる。



図Ⅱ-30 来訪目的



図Ⅱ-31 居住地別来訪目的

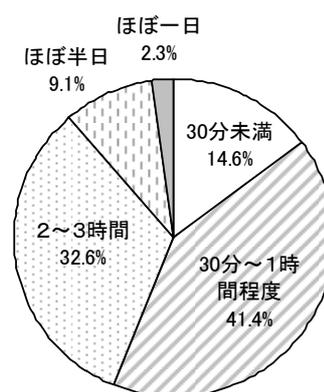


図Ⅱ-32 年齢階層別来訪目的

③宮跡での滞在時間

全体では「30分～1時間程度」が4割、「2～3時間」が3割で「30分未満」も15%近くいた。前回調査では「ほぼ半日」が22.2%、「ほぼ終日」が10.1%いたの比べると、滞在時間が短くなる傾向があるが、これは先に述べた調査対象者の違いによるところが大きいと思われる。

来訪目的別では、「歴史学習や体験」は「2～3時間」、「観光」では「30分～1時間程度」が中心となるなど違いが出ており、滞在時間が長いのは「サッカーや野球」、「趣味の活動」での来訪である。



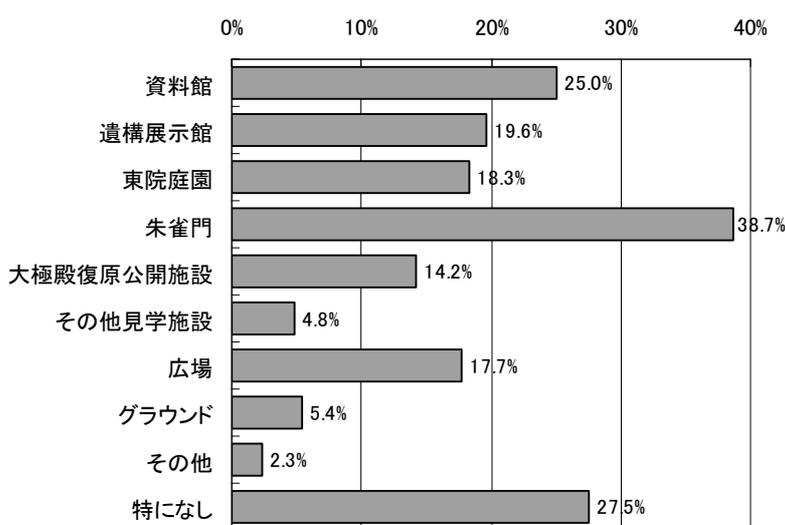
図Ⅱ-33 滞在時間

④宮跡内の利用施設

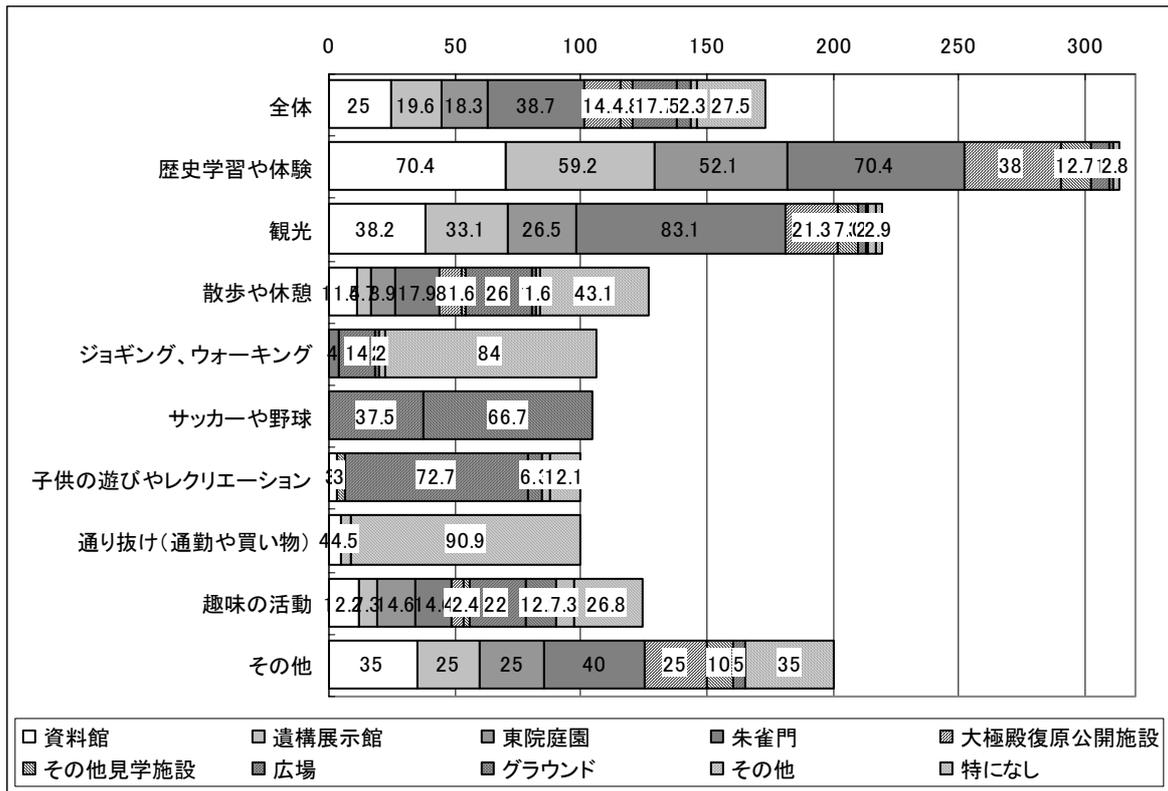
最も多く利用されているのが「朱雀門」で全入園者（回答者）の38.7%が利用しており、「資料館」の25.0%、「遺構展示館」の19.6%、「東院庭園」の18.3%と続いている。

前回調査とは整備施設が大きく異なるため単純な比較はできないが、「広場」が60%台から10%台へと大きく減少しているが、これは利用目的（対象）の変化によると思われる。

来訪目的別では、「歴史学習や体験」と「観光」目的の人が各施設をよく利用している様子が見える。中でも「歴史学習や体験」目的の人では、「資料館」と「朱雀門」の利用者が共に70.4%と高く、「遺構展示館」と「東院庭園」の利用も5割を越えている。一方「観光」目的の人は「朱雀門」に83.1%が集中し、「資料館」や「遺構展示館」は3割台の利用である。「散歩や休憩」でも「朱雀門」や「資料館」を利用する人がおり、目新しさもあってか「大極殿復原公開施設」も利用されている。



図Ⅱ-34 利用施設



図Ⅱ-35 来訪目的別の利用施設

⑤各施設の利用関係

見学施設6カ所（資料館～その他見学施設：基壇、宮内省等まで）について、利用の関係をみると次のような特徴がみられた。

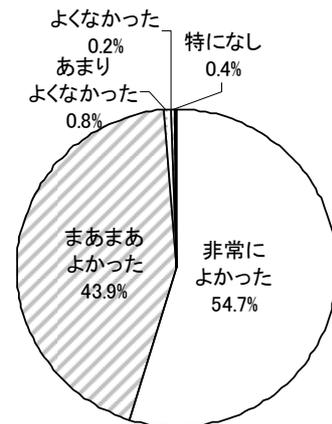
- ・当該施設のみ利用するタイプは、朱雀門で最も多く、朱雀門利用者の1/3はこのタイプであった。
- ・そのほかの主要5施設では、東院庭園が最も高く9.5%であるため、最も低い大極殿復原公開施設では6.3%であるため、朱雀門の33.3%は突出している。
- ・一方で、主要5施設を全てみる割合は、大極殿復原公開施設が27.8%と最も高く、東院庭園の23.2%がこれに続いている。
- ・以下に施設別にみていくと、資料館の利用者は朱雀門とペアで利用する割合が20.0%で、5カ所全ての利用割合16.9%がこれに次いでいる。
- ・遺構展示館は、5カ所全てが21.6%と最大で、大極殿復原公開施設を除く4カ所利用が10.8%でこれに続き、広範囲な利用を行う時の拠点となっている様子がうかがえる。
- ・東院庭園は、5施設利用23.2%に次ぐのが朱雀門とのペア利用の14.7%である。
- ・朱雀門は、冒頭に述べたように単独利用が多いが、いずれかの施設とペアで利用する場合には、大極殿復原公開施設を除いて朱雀門が組み合わせられている。朱雀門側からみると、資料館とのペア利用が多い。
- ・大極殿復原公開施設は、これ単独で利用されることは少なく、5カ所利用の27.8%に次いで6カ所利用が12.7%、3カ所利用（朱雀門と資料館）が10.1%と続き、大極殿復原公開施設まで見学する人は、宮跡内をくまなく見学する人であることがわかる。

⑥宮跡を利用しての印象

全体では、「非常によかった」54.7%、「まあまあよかった」43.9%で、ほとんどの人が好印象を持っていた。

前回調査でも併せて96.0%の人が満足しており、傾向は変わっていない。

居住地別では、遠方からの来訪者に「非常によかった」が多く、総じて近傍で評価が低かった。



図Ⅱ-36 宮跡を利用しての印象

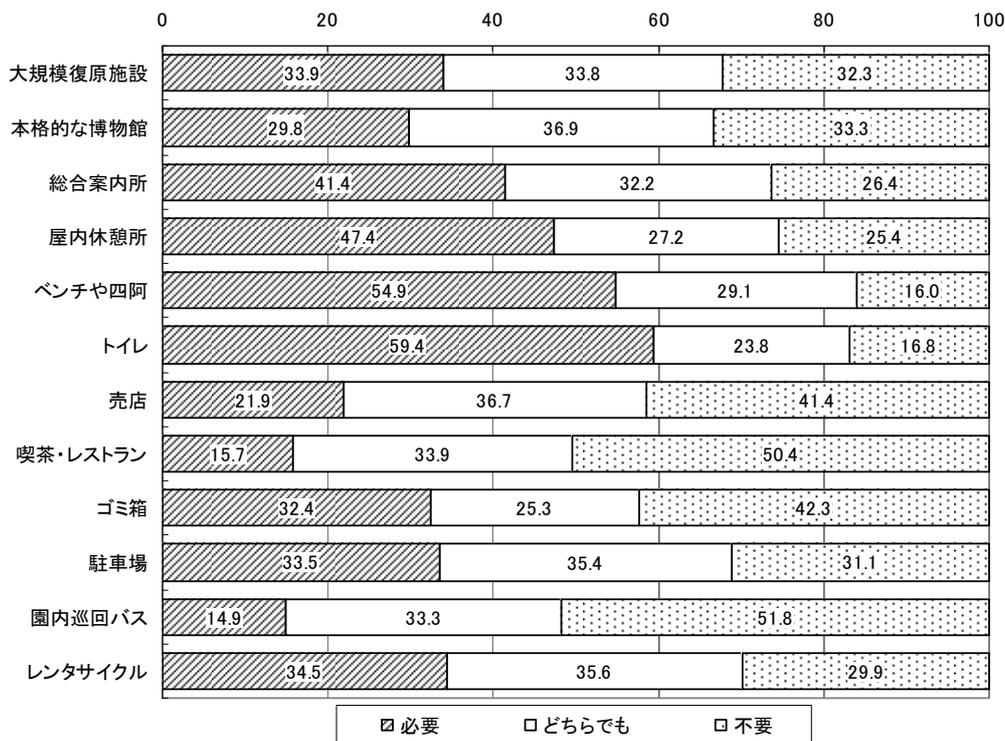
⑦各種施設の整備ニーズ

整備ニーズが高いのは「トイレ」59.4%、「ベンチやあずまや」54.9%、「屋内休憩所」47.4%、「総合案内所」41.4%などで、いずれも便益・サービス施設である。

一方、整備は不要という否定的意見が多かったのが「園内巡回バス」51.4%、「喫茶・レストラン」50.4%、「ゴミ箱」42.3%、「売店」41.4%などである。

この中間として評価が分かれたのが「大規模復原建物」（必要：33.9%・不要：32.3%）、「本格的な博物館」（29.8%・33.3%）、「駐車場」（33.5%・31.3%）、「レンタサイクル」（34.5%・29.9%）などである。

来訪目的別でみて、「歴史学習や体験」や「観光」目的の人は、「大規模復原建物」や「本格的な博物館」、「総合案内所」等の施設や「駐車場」、「巡回バス」等に対するニーズが平均値よりもかなり高くなっている。



図Ⅱ-37 各種施設の整備ニーズ

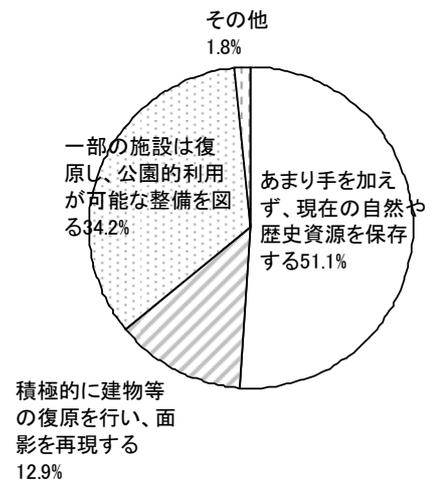
⑧希望する整備タイプ

全体では、「あまり手を加えず現在の自然や資源を保存」という現状凍結型が 51.2%と約半数を占め、「一部施設は復原し公園的利用が可能な整備を図る」という折衷型が 34.2%でこれに次ぎ、「積極的に建物等の復原を行い当時の面影を再現」という積極整備型は 12.9%と少なかった。

前回調査とは選択肢が異なるため単純な比較はできないが、前回は、現状凍結型と言える「現状保存を中心とした整備」は 24.5%で、積極整備型に近い「新たな復原・展示施設などの整備」と「観光レクリエーション型の整備」は併せて 26.2%、折衷型と言える「多目的利用のできる整備」は 43.9%で、全体として現状凍結型にシフトしてきている様子が見えてくる。

来訪目的別で見ると「歴史学習や体験」と「観光」目的の人に積極整備型を支持している人が多いが、「歴史学習や体験」では折衷型の支持割合も最大である。一方、「サッカーや野球」、「通り抜け」、「趣味の活動」などの人には現状凍結型を希望する人が多い。

居住地別では、遠方から訪れる人ほど「積極的復原」を希望し、市内や県内の人には「現状保存」が過半数を超えている。これは、遠方の人ほど「歴史学習や体験」、「観光」目的の割合が高くなっていることを反映していると思われる。



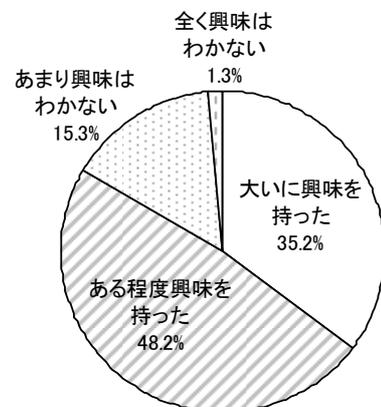
図Ⅱ-38 希望する整備タイプ

⑨宮跡を利用しての歴史や文化への興味の発生

全体では、「歴史学習や体験」、「観光」目的以外の来訪者でも、宮跡を訪れて歴史・文化への興味を「大いに持った」という人が 35.2%、「ある程度は興味を持った」という人が 48.2%おり、併せて 8割以上の人が何らかの興味を持つようになっている。

来訪目的別でみると、「ジョギング・ウォーキング」や「趣味の活動」で訪れる人が興味を持つ割合が高く、逆に「サッカーや野球」、「子供の遊びやレクリエーション」で訪れる人はあまり興味を持っていない。

滞在時間別でみると「30分未満」から「ほぼ半日」までは滞在時間が長くなるほど「大いに興味を持った」人が増加しているが、「ほぼ一日」宮跡に居る人では、「あまり興味はわからない」というのが最大になり、これは「サッカーや野球」、「子供の遊びやレクリエーション」等を目的とする人の滞在時間が長いことと関係していると思われる。



図Ⅱ-39 宮跡を利用しての歴史や文化への興味の発生

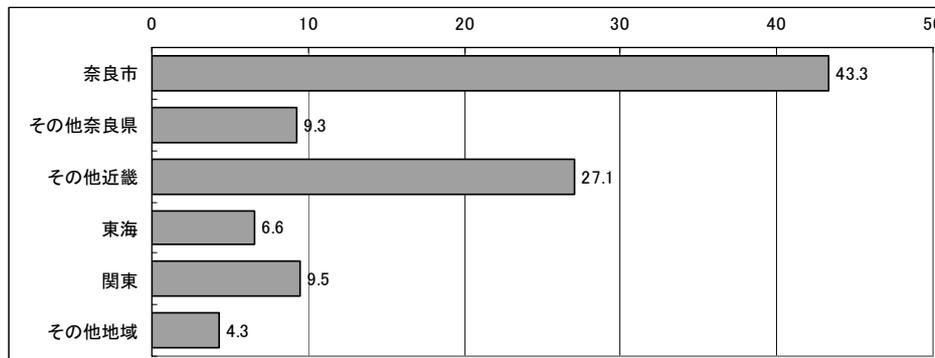
⑩居住地と主要交通手段

来訪者の居住地は「奈良市内」が43.3%を占め、「その他近畿」27.1%、「その他県内」9.3%の順となっている。近畿圏以外が併せて20.4%いるが、中では「関東」が9.5%と多かった。

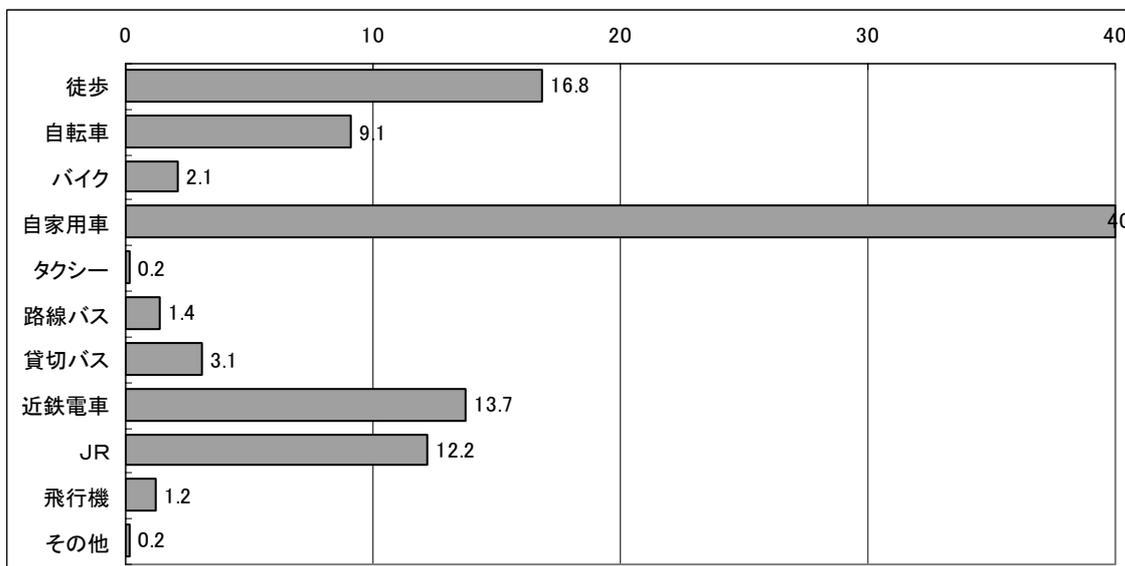
前回調査結果と比べると、「奈良市内（60.1%）」の割合が低下して近畿圏以外が増加している。

来訪者の主な交通手段は「自家用車」が40.0%で、以下「徒歩」16.8%、「近鉄電車」13.7%、「JR」12.2%の順となっている。

前回調査と比べて「自家用車（48.1%）」、「徒歩（23.2%）」とも減少し、「電車（12.9%）」が大きく増えているのは前記の利用の広域化（調査対象の変化）の影響と思われる。



図Ⅱ-40 来訪者の居住地



図Ⅱ-41 来訪者の宮跡までの主要交通手段

⑪平城宮跡以外の見学施設

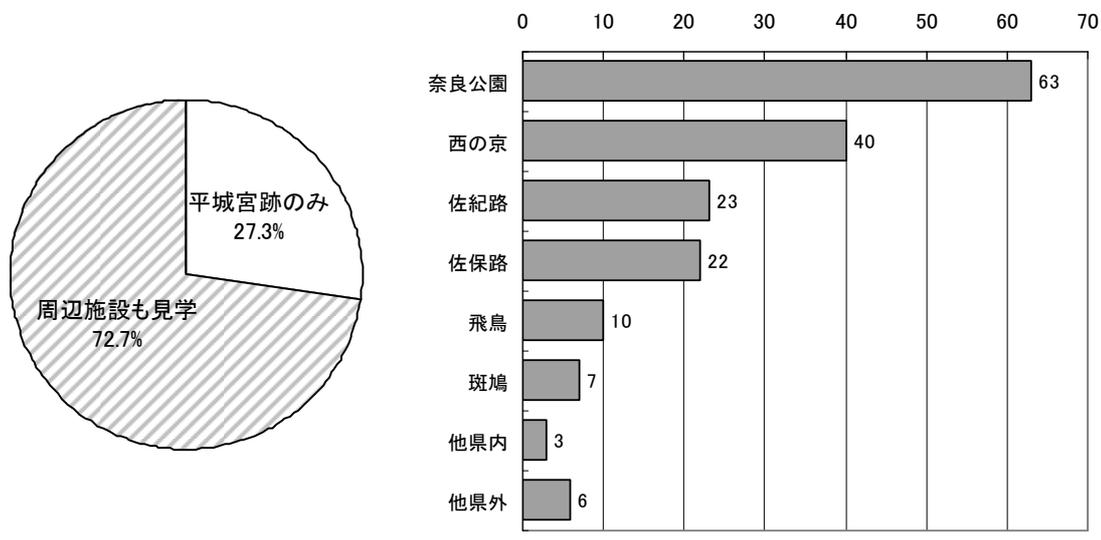
今回の訪問が「宮跡見学のみか他の施設も見学か」という問に対しては、「宮跡のみ」27.3%、「周辺施設も見学」が72.7%で、来訪者のうちのかなりの人が周遊型で動いている。

来訪目的別では、宮跡のみ利用する人に「歴史学習や体験」目的の人と「観光」目的の人では、20ポイント近くの違いがある。

「歴史学習や体験」、「観光」で訪れた人で、周遊活動を行っているという72.7%の人にその行き先をたずね、地域別で集計したところ、最も多いのは「奈良公園」であった。複数回答でもあるため63件を占めて多く、具体的には「東大寺」、「興福寺」、「春日大社」、「国立博物館」などの名があがっている。これに次ぐのが「西の京（唐招提寺、薬師寺）」の40件である。

「佐紀路」と「佐保路」はほぼ同率でならんでおり、西大寺や秋篠寺、法華寺や海龍王寺、不退寺、そして周辺の古墳群が見学の対象となっている。

奈良公園、西の京という順序は、前回調査結果と同じである。



図Ⅱ-42 周辺周遊状況と周辺立ち寄り施設

⑫宮跡内の移動ルート

平城宮跡を訪れた人のうち、「歴史学習や体験」、「観光」、「散歩や休養」、「ジョギング、ウォーキング」と答えた人のみ、宮跡内の移動ルートを図上で示してもらい、傾向をとりまとめた。

自分の歩いてきた道を図上で示すことができなかつたり（わからない、忘れた）、これから巡るルートの予定を立てていなかつたりする場合は図示不能であったため、サンプルとして得られたのは次表のとおりである。

表Ⅱ-4 来訪目的別移動ルートサンプル数

	来訪目的	サンプル数	備 考
休日	歴史学習や体験	47	うち、自動車利用型8、自転車5
	観光	85	うち、自動車利用型20、自転車11
	散歩、休養	59	うち、自動車利用型4、自転車11
	ジョギング、ウォーキング	19	
平日	歴史学習や体験	24	うち、自動車利用型2、自転車2
	観光	51	うち、自動車利用型2、自転車3
	散歩、休養	64	うち、自動車利用型8、自転車4
	ジョギング、ウォーキング	32	うち、自動車利用型1

これらを取りまとめた結果、次のようなことがいえる。

○歴史学習や体験

休日に、最も歩かれているのが資料館周辺や東院庭園前などである。朱雀門北側や第一次大極殿前、内裏などの東西の園路も20人前後が利用している。宮内省建物の東西側も15人ほどが歩いており、ほとんどの園路や通行可能な箇所がくまなく利用されている。

みやと通の横断は、第一次大極殿東側で最も多く19人で、近鉄電車の踏切を渡っているのは27人である。

施設見学等のために自動車を利用した人では、東院庭園まで入り込んだ人が8人で、宮跡北側の県道も8人が利用している。

平日は、利用される園路が幹線に絞られ、各園路の利用者も減少する。

○観光

休日では、来訪者数が「歴史学習や体験」よりも多いため、各園路の利用が増加している。また、宮跡を巡るのに自動車利用が多いことが「歴史学習や体験」との違いで、これもあつてか、近鉄踏切の横断者数は30人とそれほど多くない（もう1カ所の東側踏切は19人）。

また、休日の観光は自転車（レンタサイクルも含む）が11件利用されていたため、そのルートを図示すると、これも幹線園路に利用が集まっている。

平日の観光は、利用される園路が一層シンプルとなる。

○散歩、休養

「歴史学習や体験」、「観光」と異なるのは、近鉄線北側の、特に見学施設等のないルートが好まれている点である。これは休日も平日もそれほど差はない。

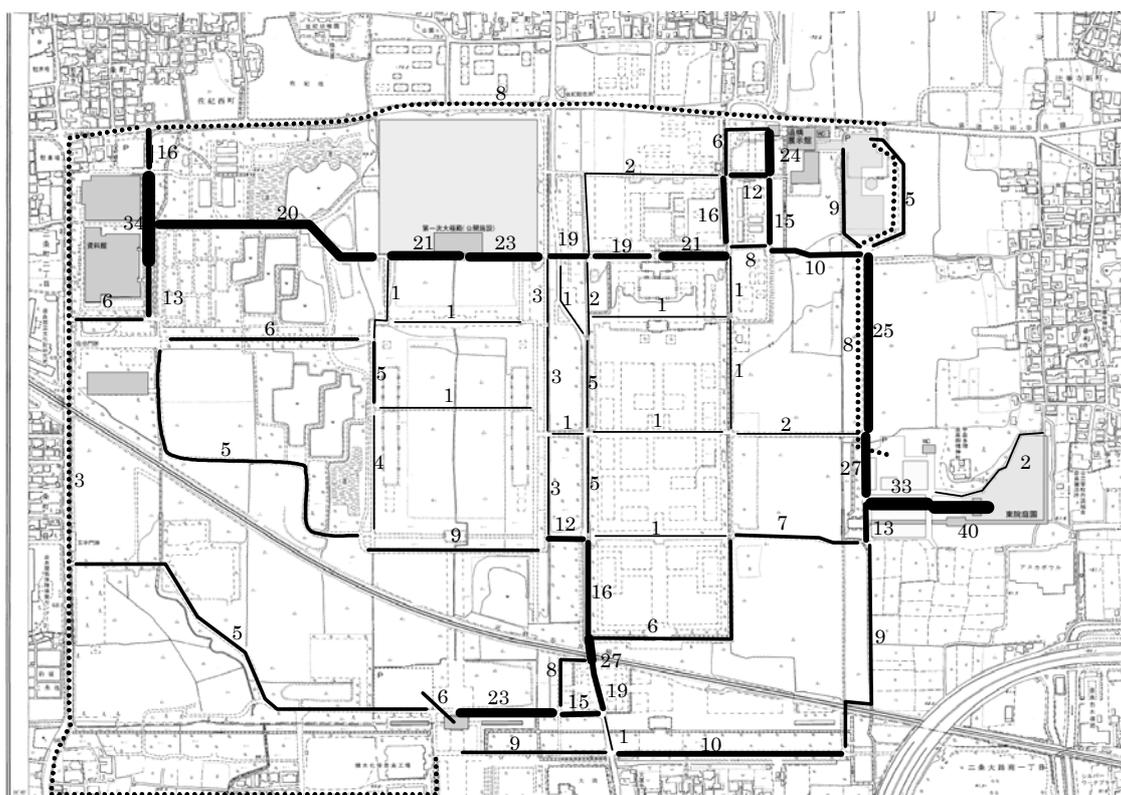
休日は「散歩、休養」に自転車もよく利用されているため、このルートを探ると、徒歩の

ルートとほぼ同じであった。

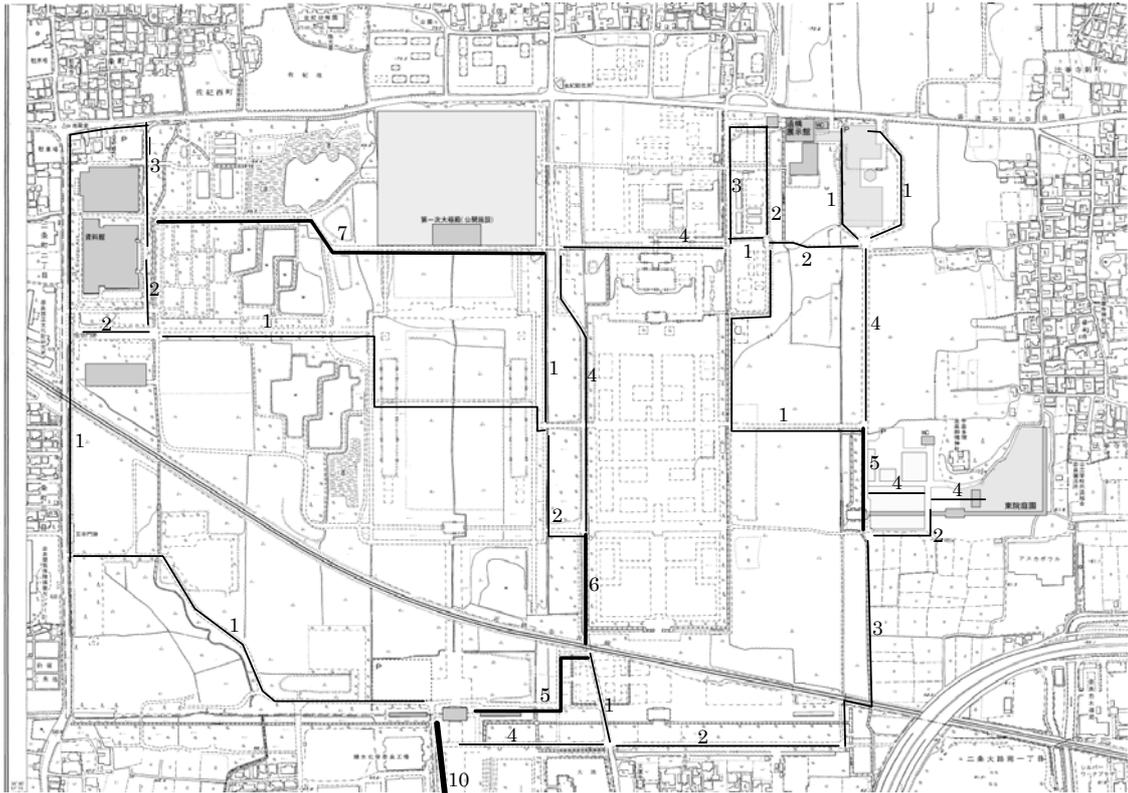
○ジョギング、ウォーキング

休日と平日を比べ、平日の方が圧倒的に各園路の利用が多くなるのは、周回や往復の利用で重複利用が起こるためであり、特に資料館から第1次大極殿、そしてこの南端の近鉄線前の園路がよく利用されている。これは、宮跡内で行われているマラソン大会のコースとも合致しているようである。

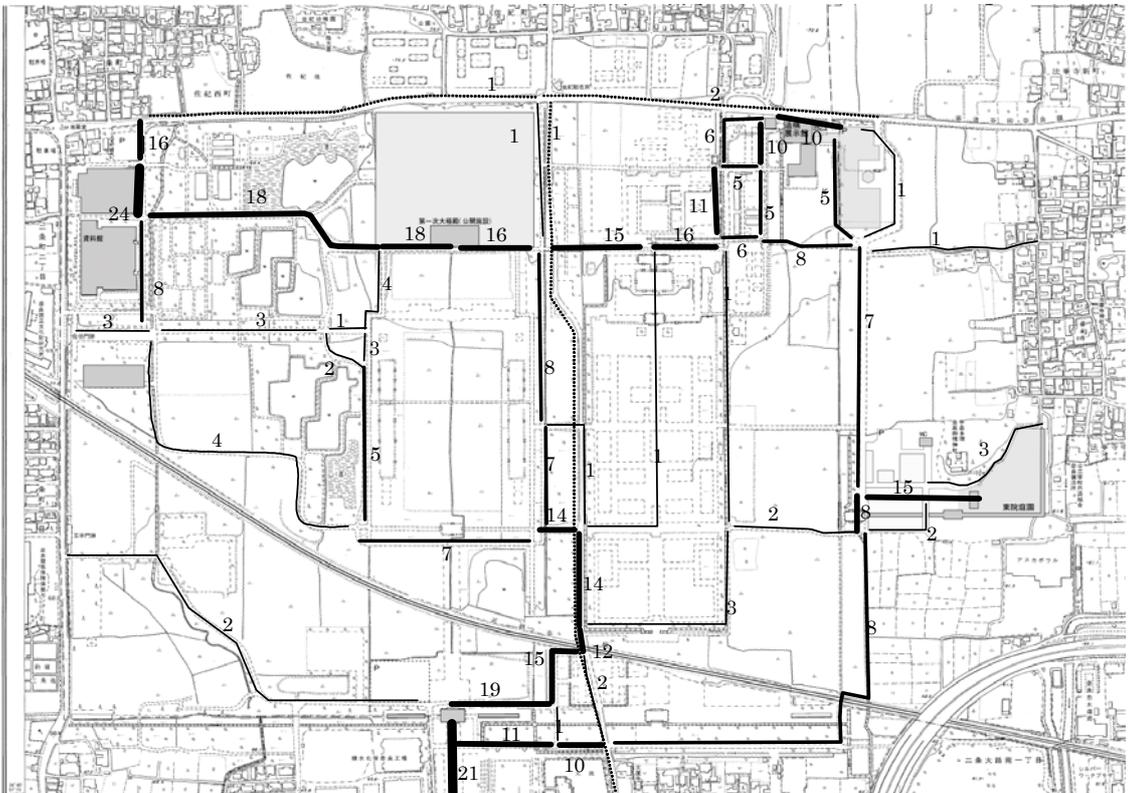
なお、みやと通や近鉄踏切の横断量は少なく、いずれの来訪者も、これらの横断をしなくてよいようなコース設定を行って利用している。



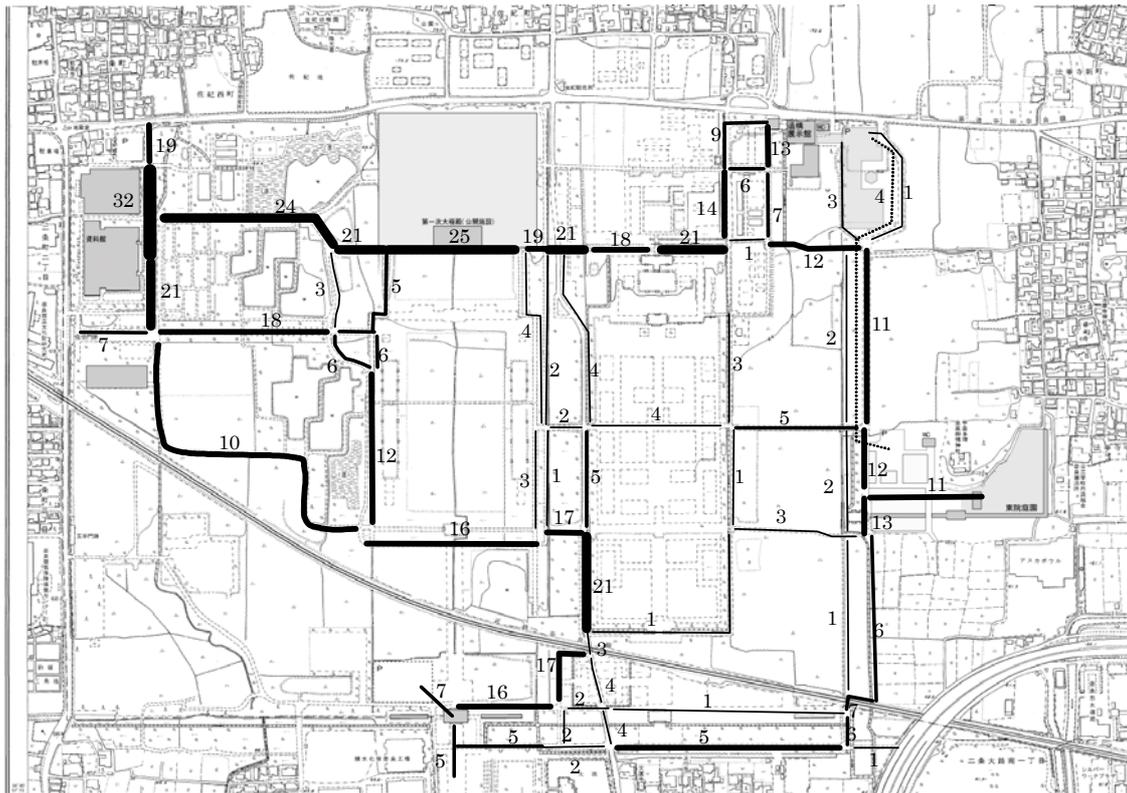
図Ⅱ-43 歴史学習、体験目的の人の利用ルート（休日：徒歩）



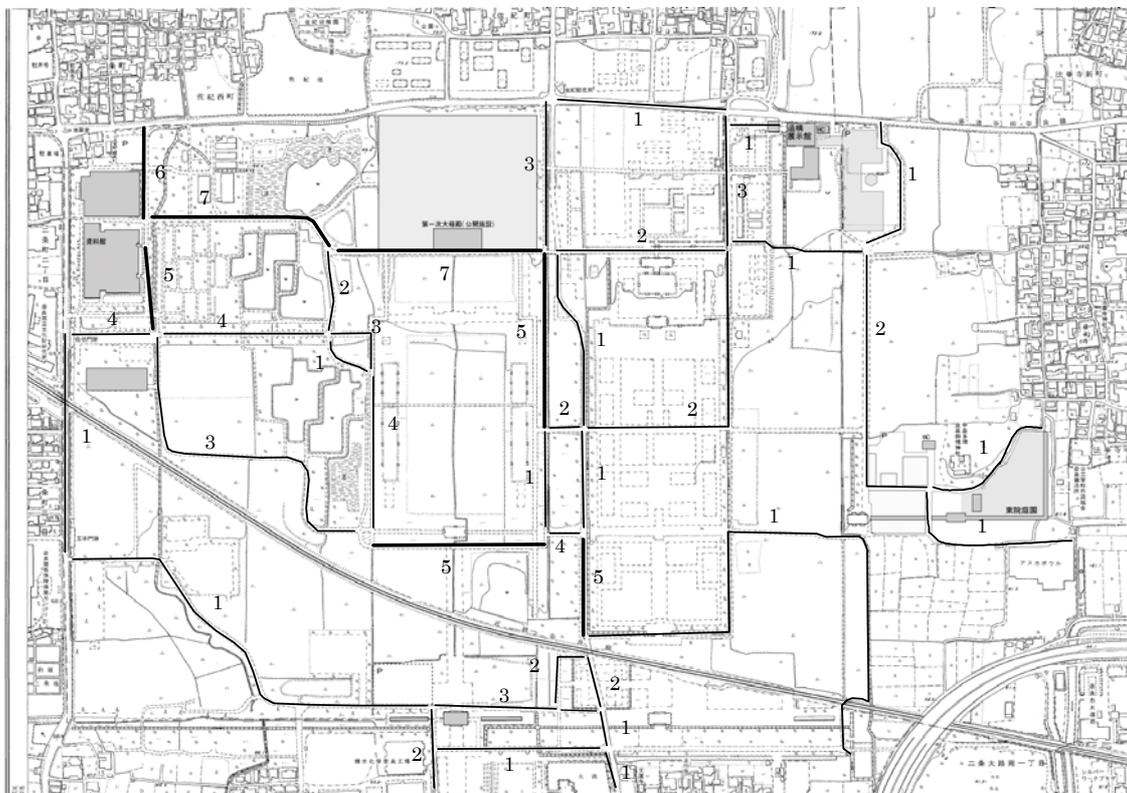
図Ⅱ-46 観光目的の人の利用ルート（休日：自転車）



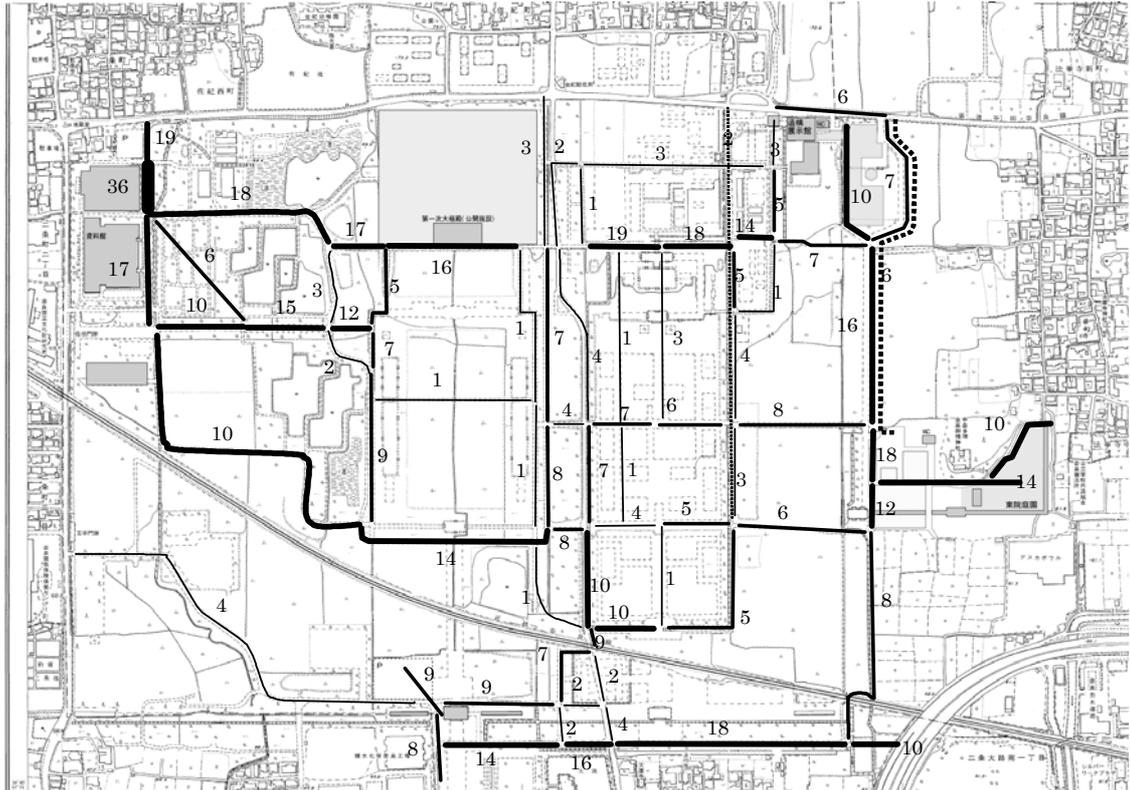
図Ⅱ-47 観光目的の人の利用ルート（平日：徒歩）



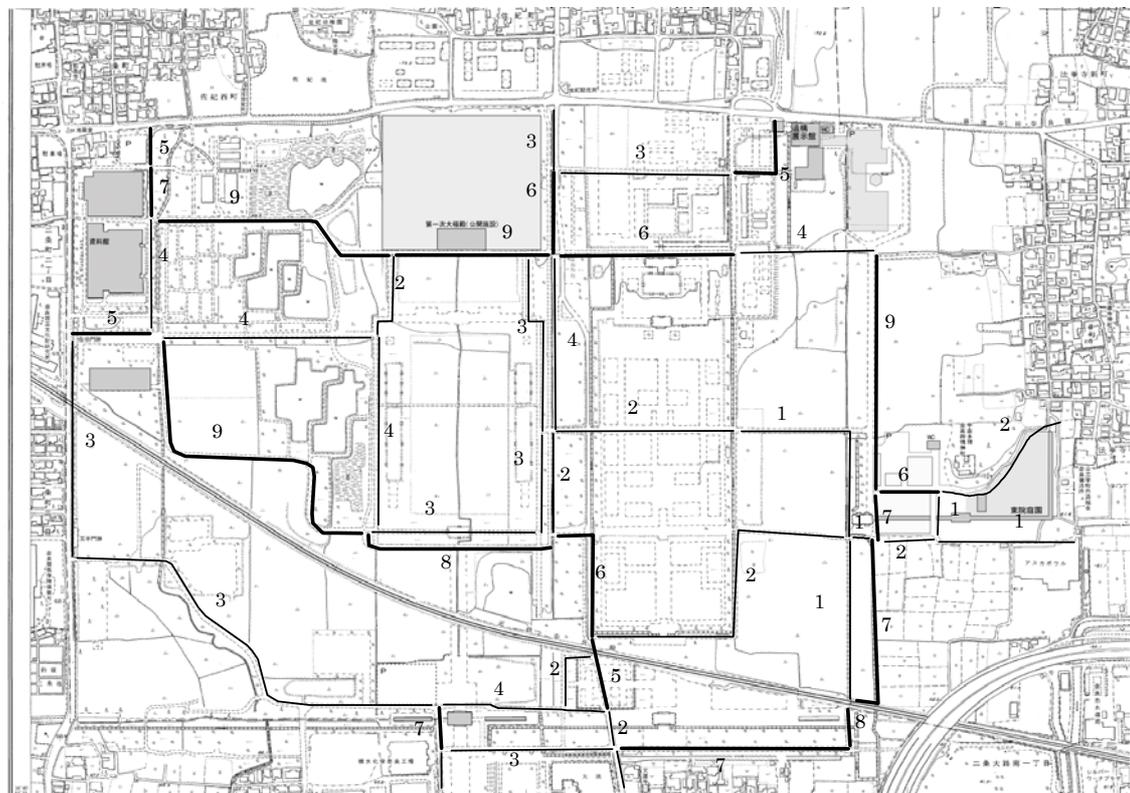
図Ⅱ-48 散歩、休養目的の人の利用ルート（休日：徒歩）



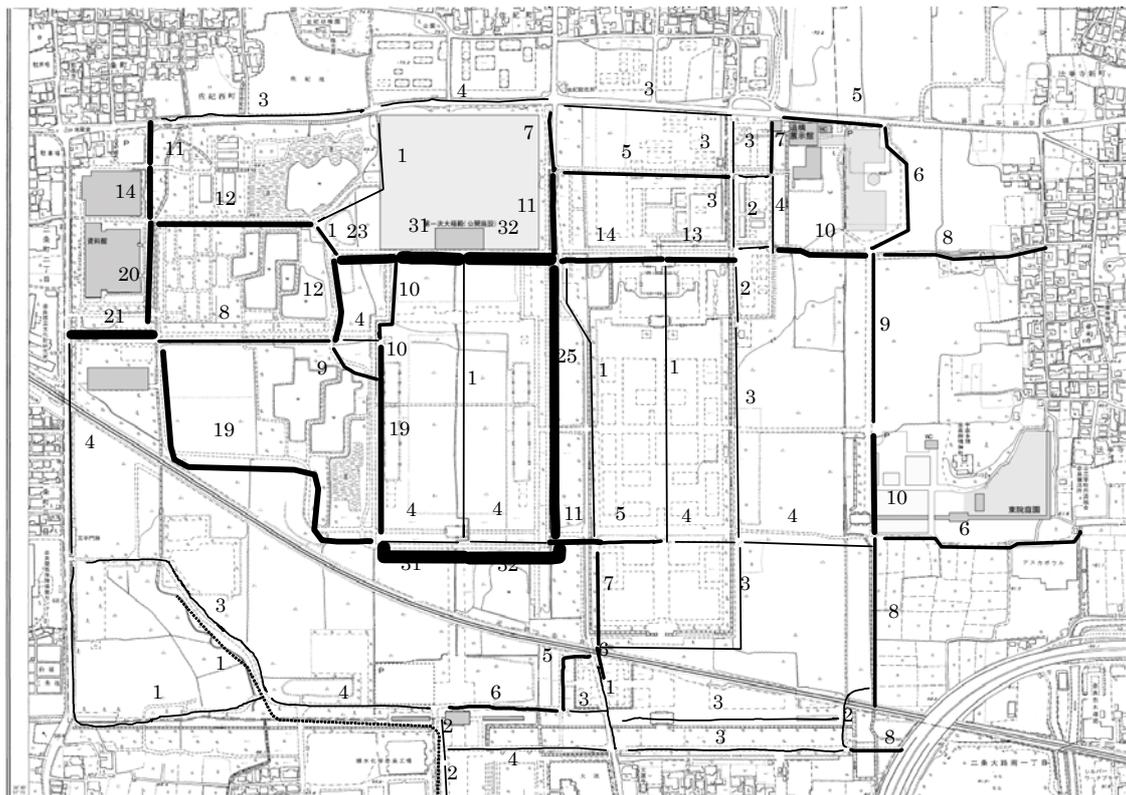
図Ⅱ-49 散歩、休養目的の人の利用ルート（休日：自転車）



図Ⅱ-50 散歩、休養目的の人の利用ルート（平日：徒歩）



図Ⅱ-51 ジョギング、ウォーキング目的の人の利用ルート（休日：徒歩）



図Ⅱ-52 ジョギング、ウォーキング目的の人の利用ルート（平日：徒歩）

2-ウ) 意向調査結果まとめ

- ・ 来訪回数は「はじめて」と「数え切れない」がともに3割以上を占め、両極端な結果となっている。
- ・ 来訪目的は、「観光」「散歩や休憩」が2割以上で多い。
- ・ 宮跡での滞在時間は、「30分～1時間程度」が4割がもっとも多く、次いで「2～3時間」3割であるが、過半数が滞在時間1時間までとなっている。
- ・ 宮跡内の利用施設としては、「朱雀門」がもっとも多く、4割近くが利用されている。
- ・ 宮跡を利用する際の印象としては、「非常によかった」「まあまあよかった」がともに4～6割と高い評価を得ている。
- ・ 施設の整備ニーズとしては、「トイレ」「ベンチやあずまや」「屋内休憩所」「総合案内所」などの便益・サービス施設で高い意向となっているが、「大規模復原建物」については、必要・不要の意見が分かれている。
- ・ 希望する整備タイプとしては、「あまり手を加えずに現在の自然や資源を保存」といった保存型と、「一部施設が復原し公園的利用が可能な整備を図る」といった一部復原型が多くみられる。
- ・ 宮跡を利用する際の歴史や文化への興味については、8割以上の人がある程度の興味を抱くようになっている。
- ・ 平城宮跡以外の見学としては、7割以上が周辺施設も見学しており、とくに奈良公園とあわせた見学が多い。

4) 団体及び事業者ヒアリング調査

4-7) 調査概要

①目的

宮跡を訪れる各種団体や、これらを取り扱う事業者に対して聞き取り調査を行い、団体での宮跡利用の実態や、宮跡の整備や管理に関する意向、要望等を明らかにすることを目的として実施する。

②調査対象

宮跡を訪れる団体としては、次のような団体を対象とした。

- 遠足や修学旅行で宮跡を訪れる広域からの小中高校
- 教科学習や総合学習で宮跡を利用する周辺の小学校
- 観光で訪れる各種団体

また、事業者としては次のような団体を対象とした。

- 定期観光バス等を運行し、宮跡を定期的に利用している事業者
- レンタサイクル業を営み、宮跡に利用者を送り出している事業者

なお、上記に関連して、自治体の意向も把握した。

- 観光振興と平城宮跡の位置づけ、宮跡への要望：奈良市観光課
- 教科学習や総合学習での平城宮跡の位置づけと利活用の状況：奈良市教育委員会

③調査項目

主たる対象である宮跡来訪団体に対しては次のような項目を聞き取った。

- 団体の属性
- 来訪の目的
- 来訪地の決定要因
- 宮跡を選択した理由
- 交通手段、宿泊場所と行程
- 宮跡内での見学施設、活動メニュー
- 宮跡を利用した際の評価
- 宮跡に対する要望 等

④調査日時と手法

遠足等のピークとなる11月から始めて、翌年の1月にかけて実施した。

調査は、宮跡内の主要施設（資料館、遺構展示館、朱雀門等）に調査員を配置し、来訪団体の代表者等に対して、面談聞き取り方式で行った。周辺学校や事業者等に対しては、訪問の上で調査を行った。

⑤調査実施団体

計25団体に対する調査を実施した。

4-1) 調査結果

①遠足、修学旅行団体

(1) 団体の属性

資料館等で受け付けている「平城宮跡団体見学予約表」でも、小学校から高校まで幅広く利用されている様子がわかる。

学校所在地をみると、東は関東地方から西は中国地方までの利用が多いようである。この理由として、近畿圏を除くと、歴史学習の拠点となる屋外の大型見学施設が少ないことがあげられる（東北では「三内丸山遺跡」が、九州では「吉野ヶ里遺跡」が修学旅行等のメッカとなっている）。

なお、遠足で訪れるのは小学校の高学年、修学旅行は小学校6年、中学3年、高校2年となっている。

団体の人数はまちまちであるが、多いところで100名強、最大200名強である。高校生では、宿泊以外は5、6人程度のグループ活動を取り、宮跡の見学を希望したグループのみが来訪するというケースが多かった。

(2) 来訪の目的

端的には遠足、修学旅行の形態をとるが、社会見学、歴史学習、研修等の名目で訪れる場合が多い。このため、帰校後は作文やレポートの提出を義務づけているところもあり、パンフレットや資料館などで撮影された写真がこの役に立っているようである。

(3) 宮跡選択の理由

小学校では、歴史学習の一環として利用する時に、奈良時代は歴史の授業で始めて接する、記憶に残りやすく関心も高い時代であるため、この時代を代表する平城宮跡は、格好の題材として評価されている。特に春の遠足での来訪では、学習の進度がちょうど奈良時代にあたるため、奈良以外の来訪は考えられないという意見もあった。

また、小学校の遠足や修学旅行では下見が行われているが、その際に宮跡内の広がりや資料館内容の充実、ボランティアガイドのサービスなどが評価されている。

中学、高校では、班行動で行き先を選択する際に、世界遺産指定地で、奈良時代を代表する史跡という知名度の高さの割に班のメンバーが行ったことのない施設という、利用面でのマイナーさが選択の理由ともなっている。

(4) 日程と訪問先、交通手段

○小学校の遠足

社会学習活動の一環として、グループ単位で電車を利用して宮跡を訪れ、帰りはまとまって帰校するというパターンで、途中の立ち寄り等もない。

○小学校の修学旅行

近傍（神戸市等）からの来訪では、1泊2日の初日に宮跡を訪れ、遠方に向かうケースが多く、近畿圏外からの来訪では1泊2日の初日、ないしは2日目に奈良公園等とともに宮跡を訪れ、他の時間は大阪市内や京都市内で過ごすというケースが多い。

生徒数6名という小規模校を除き、移動は貸切バスである。

○中学校、高校の修学旅行

中学、高校ともほぼ同様の行動形態であり、3泊4日ないしは4泊5日の行程で、京都市内と奈良市内に宿泊し、団体行動と班行動の組合せで京都市内と奈良県内（奈良公園、飛鳥、斑鳩、西の京など）を周り、この中で平城宮跡を訪れている。

近畿までは新幹線や飛行機を利用し、その後は貸切バスや公共交通機関を利用している。

(5) 宮跡の評価

総合的には、学生が歴史を学び休憩する場として、歴史性、自然性、広がり性の面で高く評価されている。具体的には、資料館等の拠点施設があって特段の準備をせずとも歴史学習が行える点、みやと通等を除いて交通の安全が確保されている点、遠足では他校とかけ合っても弁当を食べる場が十分にある点、そして100haという当時の宮跡の広さを朱雀門などから実感できる点などが評価されている。

また、管理面では、ボランティアガイドの評価が高い。

マイナス面としては、屋外施設としてやむを得ない部分ではあるが、雨天時の行動スケジュールが制限され、雨の場合は資料館などの屋内施設のみを見学し、昼食も車内にならざるを得ないという意見があった。

(6) 宮跡への要望

最大の要望としては、計画的なスケジュールを組むために、雨の時でもまとまって食事のできる屋根のある施設が欲しいという意見であった。

これに次ぐのが、ガイドマップ以外に、宮跡全体の歴史や施設の詳細がわかる冊子が欲しいというもので、小学生向きにアレンジした簡単な冊子があるとのお助かるという意見もあった。

中高生からは、広い宮跡内をグループで移動するのに適したレンタサイクルが欲しいという要望もある。

また、「近年の学校教育では見学だけでなく体験を重視しているため、なんらかの実体験ができるソフトを準備してはどうか」、「宮跡周辺の小学校が総合学習の場として宮跡を利用しているのなら、そういう学校との交流の仕組みがあるとおもしろい」などといった突っ込んだ意見もあった。

②一般観光団体

(1)属性

調査を行った団体は、地域コミュニティや業者の親睦団体が多かったが、資料館等で受け付けている「団体見学予約表」でも、町内会や婦人会、商工会等の団体、企業団体が多かった。これに混じって、歴史愛好会や歩こう会などの趣味の団体が訪れている。

(2)来訪目的

平城宮跡のみを目的とした利用は少なく、奈良観光のついでの立ち寄り先のひとつとして利用されている。目的は、いわゆる「観光・レクリエーション」となる。

(3)来訪地の決定要因と宮跡選択の理由

ほとんどの団体が、毎年定例のレクリエーション活動の一環として訪れているが、その行き先は、各人の希望やツアーリストの紹介などで決定されている。

その中で、平城宮跡が選ばれている理由としては、参加者からは世界遺産のひとつであるという理由が多く、ツアーリスト側からは、入園・駐車共に無料の施設であり、ツアー料金の押さえ込みに有効であるという理由があった。

(4)宮跡内の活動

限られた時間内の滞在で資料館のみ見学というところが多く、これ以外では朱雀門や大極殿復原公開施設が利用されている。

(5)宮跡の評価

学校団体と同様に、広々とした自然の残る空間があり、人もごみごみしていないところやボランティアの解説が高く評価されている。特に、高齢者がのんびりと教養を高めながら過ごすのに最適の場であるとして、「次回は家族や友人とゆっくりと来たい」という声が多くあがっている。

(6)宮跡への要望

復原については両方の意見があり、各施設を積極的に復原して、当時の様子を再現して欲しいという意見と、今の広がりのある景観を大事にして欲しいという意見があった。

その他に具体的な意見として、次のような意見があった。

- ・朱雀門と大極殿を結ぶ道や、大極殿周辺の回廊などを復原し、宮跡のスケールがもっとよくわかるようにして欲しい。
- ・見学施設が分散しているため、一番利用の多い資料館に、大極殿にあるような大型の映像施設を設置し、宮跡全体のガイダンスが行えるようにして欲しい。

③宮跡を活用した周辺学校の教科学習

(1) 奈良市の取り組み

奈良市では、郷土学習の一環として小学校5年生を対象に、「世界遺産学習」を実施しており、この副読本として「世界遺産のあるまち奈良」を作成し、小学校に配布している（中学生に対しては、「奈良の歴史」を配布）。

上記冊子は、A4版カラー刷の27頁構成で、「古都奈良の文化財」として登録された8カ所を紹介しており、平城宮跡についても2頁を割いて紹介している。

実際に教科学習（社会科）や総合的な学習の取り組みの中で、どの施設を訪れるかについては各学校の取り組みによって異なり、基本的には学校近傍の施設が選ばれて利用されている。

また、世界遺産学習に際しては、活動資金の補助のほか、観光ボランティア組織「朱雀」との連携を図るような斡旋を行っている。

(2) 活用状況のまとめと宮跡の評価、要望

上記の例もみても、平城宮跡が各学年の習熟度に応じて活発に利用されていることがわかり、それも歴史学習だけでなく、ドングリ拾いや虫取りなどの自然学習、バリアフリーなどの福祉の学習など、多様な使われ方をしていた。

その理由として、徒歩圏の身近な場に宮跡があり、歴史学習や自然学習に関して授業、教材の内容と合致しているというものであった。

このため、宮跡の利用については、今後も引き続いて行っていく予定とされている。

宮跡に対する要望としては、利用に際して専門的な知識などを要する場合は、奈良市観光ボランティア「朱雀」との連携が図られていることもあって、特段のものはあがっていない。

④観光事業者からみた宮跡の位置づけと要望

平城宮跡は、無料で利用でき、広がりのある自然の中に優れた復原施設が整備されている点が高く評価されている。

バス事業者からあがっている具体的な要望としては、きれいなトイレと土産物の販売店、癒し空間となる池などの水辺空間の新たな整備が要望としてあがっている。

また、車内で配布できる宮跡のパンフレットの作成や、その中に映画「陰陽師」で朱雀門が利用された旨のコメントなどがあれば、さらに宮跡の観光商品としての価値が高まるという意見もあった。

今後整備される大極殿については、朱雀門以上のインパクトが期待されており、その活用のためには近辺での駐車場整備が不可欠とされている。なお、大極殿と朱雀門の両方の見学コースの設定が当然視されるが、その際に、観光客にこの間を歩かせるには距離が離れているため、バスでの移動が想定されるが、このルートとなることが考えられるみやと通の幅員や、近鉄線踏切の遮断が、大きなネックとなることが予想されている。

また、宮跡外になるが、ライトアップコース等で利用する際の、朱雀大路駐車場のスムーズな開閉システム（現在は夜間施錠されているため、乗務員が鍵で開閉している）の整備が求められている。

レンタサイクル事業者からは、これも宮跡外であるが、西大寺駅から宮跡に至る、わかりやすく安全な道路の整備が必要とされている。

5) 使用許可に関する調査

5-7) 調査概要

①目的

平城宮跡の利用状況把握の一環として、利用申請等に基づいた占用利用がどの程度行われているかについて把握するために、許認可の状況を調査した。

②調査手法

文化庁平城宮跡管理室で保管されている平成 14 年、15 年の 2 ヶ年の利用申請書の内容を項目毎に分けて整理、転記し、集計・解析を行った。

③調査項目

利用申請については、特に定まった様式はなく、申請者毎に書式や記載内容が異なるため、次の項目について、記入のある範囲で把握に努めた。

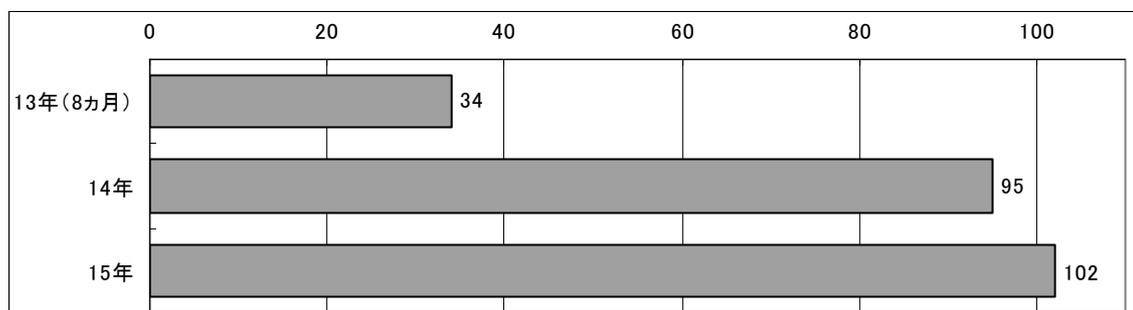
- 使用年月日
- 使用時間
- 申請者（申請者の属性区分）
- 使用目的（目的区分）
- 使用場所・施設
- 人数
- 備考

5-1) 調査結果

①件数

14 年が 95 件、15 年が 102 件の届出があった。

文化庁平城宮跡管理室での許可申請等の受付は、13 年 5 月より行われており、13 年は 8 ヶ月のみの受付であるが 34 件しかなく、届出件数は増加傾向にあると思われる。



図Ⅱ-53 届出件数

②届出の内容

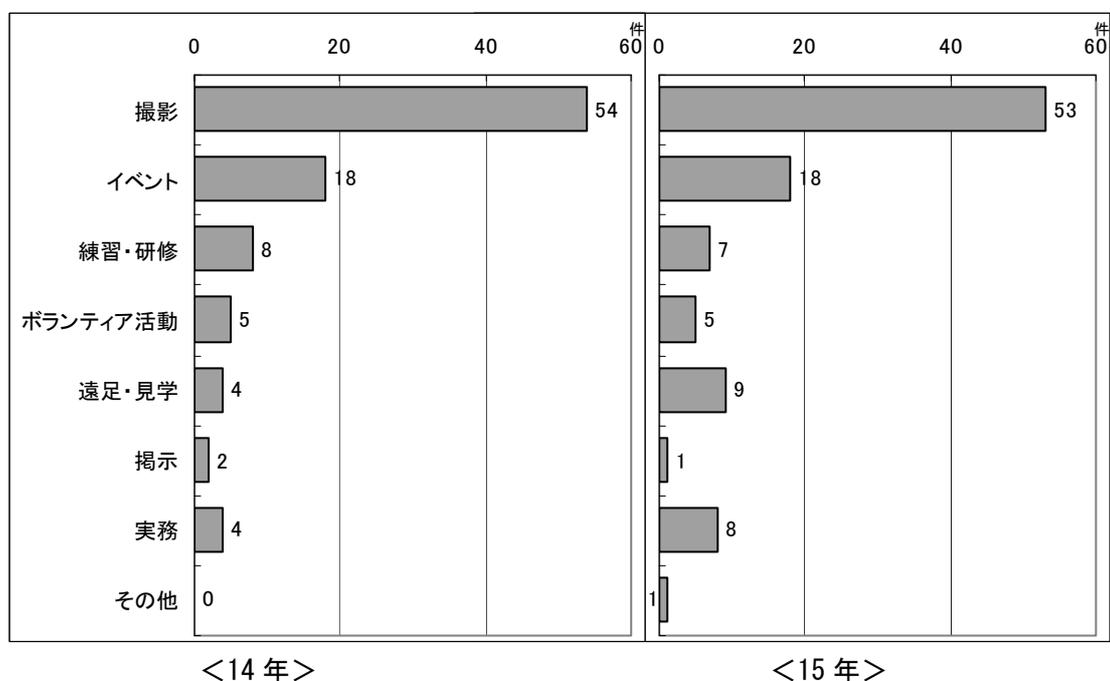
14年、15年ともほぼ同じような傾向で、「撮影」が5割以上を占めて最も多かった。撮影の内容は、映画のロケーション、テレビの録画撮影、雑誌や広報紙、ホームページ等に掲載する写真の撮影と多岐に渡っている。

これに次いで多いのが「イベント」で、両年とも18件（2割前後）あった。内容は「平城遷都祭」のような観光イベントのほか、町会の運動会や小学校のマラソン大会のようなスポーツイベント、警察犬の競技会、夏祭り、凧揚げ大会、ペットボトルロケット大会など多様なイベントが行われている。

「練習・研修」の具体的内容は、定期的に行われている自衛隊幹部候補生学校の持久走訓練や大学生の歴史研修などである。

「ボランティア活動」として集約したのは清掃活動が多い。

また「実務」には、テレビ局の電波測定試験、測量、アンケート調査などが含まれる。



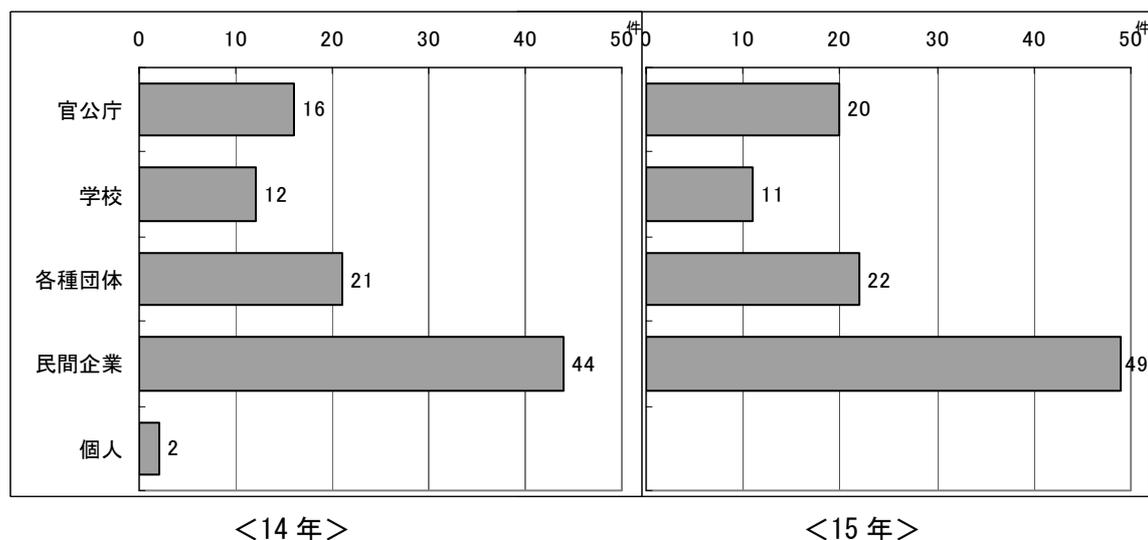
図Ⅱ-54 届出の内容

③届出団体の性格

最も多いのが「民間企業」で各種の撮影を行うテレビ局や新聞社の下請け会社がこの多くを占めている。

これに次ぐ「各種団体」に分類したのは、イベントの実行委員会や協議会、自治会や振興会、宗教法人やボランティア団体などである。

「自治体」では、奈良県や奈良市がほとんどを占めるが、県下の他市町村、周辺に立地する国の出先機関などの利用がある。



図Ⅱ-55 届出団体の性格

④使用場所

申請書によって使用箇所や施設が特性されていなかったり、「平城宮跡」と記入されていたりして、定量的な把握は困難であるが、具体的に記載されたものだけみると、朱雀門が圧倒的に多かった。

これに次ぐのが東院庭園と第二次大極殿周辺である。

6) 団体及び事業者ヒアリング調査

「特別史跡平城宮跡 平成 15 年度秋季および冬季利用実態調査報告書」によると、遠足、および修学旅行団体としては、東は関東地方から西は中国地方までの小中校生の利用が多い。団体人数はばらつきがあるが（最大 200 名強）、高校生では 5，6 人の班行動をとり、宮跡見学を希望した班のみが来訪している。

遠足、および修学旅行団体における宮跡の評価としては、学生が歴史を学び休憩する場として、歴史性、自然性、広がり性の面で、高く評価されている。一方、屋外施設のため、雨天時の行動スケジュールが制限されることから、この対策が求められている。

使用許可状況に関してみると、届け出件数は増加傾向にあり、平成 15 年には 100 件を上回っている（受付は平成 13 年 5 月から開始）。届け出の内容としては「撮影」が 5 割以上と最も多い。

7) まとめ

7-7) 利用者数調査にみる特性

○利用者数の多さ

今回の調査結果を基にした推計では、宮跡の年間利用者数は 100 万人以上とされている。この利用者数を、公園的な利用が行われている他の特別史跡と比較すると、大都市内に立地している大阪城公園や京都御所、市内観光のメッカとなっている五稜郭には及ばないものの、飛鳥歴史公園（国営公園）に匹敵する数字となっている。

また、この数字は推計値であるため、1 日当たりの利用者数で比較すると、秋季調査結果の 6,356 人（休日）という数は、国営公園の 8,511 人には及ばないものの、総合公園の 4,222 人、広域公園の 5,186 人を上回り、大規模公園並の利用があることがわかる。

表Ⅱ-5 参考一特別史跡等の利用者数

名 称	所在地	面積 (ha)	利用者数 (万人)
五稜郭公園	北海道函館市	25	150
三内丸山遺跡	青森県青森市	39	38
さきたま風土記の丘	埼玉県行田市	30	80
大阪城公園	大阪市	106	200
京都御所	京都市	65	400
飛鳥歴史公園	奈良県明日香村	46	97
吉野ヶ里歴史公園	佐賀県神埼町ほか	16	68

表Ⅱ-6 参考一都市公園の1日当たり利用者数

○国営公園：8,511 人（全国 11 ヲ所の平均、平均面積 80.5ha）
○広域公園：5,186 人（全国 23 ヲ所の平均、平均面積 62.7ha）
○総合公園：4,222 人（全国 39 ヲ所の平均、平均面積 23.9ha）
※データはいずれも、「平成 13 年度都市公園利用実態調査（国土交通省公園緑地課）」による、10 月の休日の調査結果

○季節を問わない利用

今回の四季に渡る調査では、春秋の利用の多さは無論のこと、炎暑の8月上旬に実施した夏季調査でも春秋の 2/3 程度の利用はあり、宮跡が一面の霜に覆われた2月上旬の冬季調査でも休日には3千人以上、春秋の4割程度の利用はみられた。

都市公園の調査では、冬季は春季のピーク時に比べて2割程度の利用しかみられないことが報告されており、この4割という数値は極めて高いものである。

○早朝から夜間までの利用

日の出から日没までという利用の全時間帯に行った今回の調査では、過去の調査が行われた9～17時という時間帯以外の利用が非常に多いことが判明した。

早朝6時から調査を行った春季・夏季調査では、9時までの入園者数が多い日では900人以上おり、また19時30分までの調査を行った夏季調査では、17時以降の入園者数も900人以上を数えている。

○平日、休日で異なる利用傾向

各季節の休日と平日の利用には共通点がみられた。すなわち、休日は、朝から緩やかに入園者が増加し、午後1～3時を滞在のピークとして、その後は滞在者も入園者も減少に転じるという動きがあるのに対し、平日は時間帯による出入りが少なく、終日一定割合の滞在者数がいるという点である。

平日はこれに加えて、遠足や観光などの団体利用が増加するため、入園は午前中に、退園は午後に突出した時間帯があるのも特徴である。

○団体利用の多さ

今回の調査は利用者数の把握に主眼が置かれたため、団体利用の詳細についてはわからないが、最も団体利用が増加すると思われる春季の平日調査では、目視による調査のみでも32組、1,672人の利用が確認され、これは当該日の利用者数の3割以上にのぼっていた。

この大半が小学生の遠足であり、これには滞在時間が比較的長い、食事の際に利用される場所がほぼ同じ、出口と入口が異なるなどの共通点がみられた。

○朱雀門利用の多さ

朱雀門の利用に関してはこれまでまとまった調査などはなかったが、今回、朱雀門の利用者数をカウントしたところ、春季の平日を除いて、利用者数がカウントされている他の見学施設（資料館、遺構展示館、東院庭園）の利用者数を上回った。春季の平日は、小学校の遠足が資料館の利用者数を押し上げている。

加えて、朱雀門の利用者数については、宮跡区域に立ち入ることなく、門を背景として記念写真を撮影したり、タクシーなどの車窓からの見学に終わる人もおり、これらの人は朱雀門利用者にカウントされていないため、実際はこれ以上の利用があるものと思われる。

○施設休館日の減少

今回の秋季調査ではじめて行った、資料館等の見学施設の休館日の調査では、入園者数が他の平日に比べて3割、1,500人ほど減少していた。時間帯別の入退園の傾向などは全く同じであり、見学施設の開館は、宮跡の利用に影響を与えていることがわかった。

○徒歩及び自転車利用が中心

秋季調査で実施した入園者の属性把握の一環で、全入園者の利用交通手段を調べたところ、平日・休日とも「徒歩」が4割近くを占め、「自動車」は3割前後でしかなかった。

このため、各調査日においても、特定の駐車場が一時的に満車になる状況はあっても、宮跡全体で飽和状態になることはなかった。

また、団体利用は平日に集中するため、大型バスの駐車による影響もみられなかった。

7-イ) 利用形態調査にみる特性

○都市公園的な利用形態の多様さ

今回の調査結果からは、宮跡内での活動は、本来の整備目的である歴史見学や観光のほか、野球やサッカーなどの競技スポーツ、キャッチボールや体操などの軽スポーツ、散歩や休憩、子どもの遊び、そして多種多様な趣味の活動など、多岐に渡ることがわかった。

このような利用は、規模の大きな都市公園の利用と類似しており、宮跡は、特別史跡という重要な歴史文化資源であると同時に、多様なレクリエーション活動の場として公園並みに利用されていた。

○宮跡ならではの趣味の活動

上記のような多様な利用の中で、宮跡の規模や地形、整備状況等を生かす形で行われているのに「趣味の活動」がある。

広大で電線や樹木等の遮蔽物のない空間を生かしては、凧揚げや模型飛行機を飛ばす場としては定例化しており、宮跡の端や草などが茂って一般の利用者が少ないところでは楽器練習や発声練習などの大きな音を出す活動が行われ、湿地や樹木が植栽されたところでは自然観察や動植物の採集などがみられた。また、このような自然や歴史的景観を背景として、写真撮影やスケッチ等の芸術活動も行われている。

○ゾーンによる使い分けの実施

趣味の活動も上記にみるように場所場所での使い分けが行われているが、これ以外にも、単なる休憩と食事を伴う休憩では駐車場からの分布距離が異なっていたり、散歩と犬の散歩を比べても、散歩が園路を中心に行われるのに対し、犬の散歩は園路を外れて、広場や草むらなどに立ち入って行くなど、活動形態と利用箇所は密接に結びついていた。

○ジョギング、ウォーキング、散歩などの路上活動の多さ

特に朝夕の時間帯は、散歩や犬の散歩、ウォーキングやジョギングなどの健康運動系の利用に占められ、このほとんどが園路で行われている。これは、宮跡には原則として自動車やバイクが進入せず、みやと通や近鉄電車による分断を除くと、安全・快適に周遊できる園路が整備されていることによると思われる。

○無視できない通過型利用

今回の調査では詳細な把握はできなかったが、上記のような園路利用の一形態として、時間帯やスピード、服装などから判断して通勤・通学や買い物などの通り抜けと思われる利用が多く観察された。

宮跡の北西には近鉄の大和西大寺駅と大型ショッピング施設が、また南東にも新大宮駅とほぼ同等のショッピング施設があり、周辺市街地からの発生交通がこれらを利用する形で通り抜け利用が多発している可能性がある。

7-ウ) 利用者アンケート調査にみる特性

○はじめてと数えきれないに分かれる来訪回数

宮跡の来訪回数は「はじめて」が1/3、「数え切れない」が1/3、残る1/3が2回以上の利用となっている。「数え切れない」という人は散歩などで毎日のように宮跡を訪れている人であり、これを除く人を歴史見学や観光目的等で宮跡を訪れる人とする、「はじめて」と「2回以上」がほぼ半々ということになり、これは飛鳥歴史公園で行われた調査結果と類似している。

○短い滞在時間

「30分～1時間程度」が40%、「30分未満」が15%おり、宮跡利用者の半分以上が1時間以内の滞在で帰っていることになる。滞在時間が長いのはスポーツ活動や趣味の活動を行う人で、宮跡本来の目的である歴史学習を行う人や観光の人は総じて滞在時間は短く、特に観光では30分未満が2割以上、1時間未満では6割以上を占めた。

○歴史施設利用の拠点は朱雀門

利用者数調査でも判明した事項ではあるが、アンケート調査でも朱雀門の利用の多さが裏付けられている。

特に、「はじめて」の人、遠方の人、観光目的の人は大半が朱雀門を見学している。

○現状の高い評価

宮跡を訪問して「非常によかった」という人が5割以上おり、「まあまあよかった」を加えるとほとんどの人が宮跡に好印象を持っていた。平成8年度に実施した調査でもこの割合は変わらず、宮跡の良さは維持されていると思われる。

○道路交通に関しては様々な問題

「特に問題はない」とする人は1/4で、残る3/4は種々の問題を指摘している。最も多いのが「鉄道による分断」と「みやと通による分断」でいずれも安全性や利便性の点で問題視されている。このほかに、「案内標識等の不足」「道路や鉄道の景観阻害」なども問題点としてあがっている。

○求められているのは便益施設

最も整備要望が高かったのは「トイレ」で、以下「ベンチや四阿」「屋内休憩所」と続き、いずれも便益施設であった。いっぽうで不要とされたのは「喫茶・レストラン」「売店」などで、「大規模復原施設」や「本格的な博物館」は評価が二分している。

○現状保存を中心としたニーズ

半数の人が「あまり手を加えず現在の自然や資源を保存」という現状維持型を希望しており、「一部施設は復原し公園的利用が可能な整備を図る」という折衷型が1/3でこれに続いている。

歴史学習や観光で訪れる人は、どちらかというとな積極的に整備を志向しているが、スポーツや趣味の活動で訪れる人は現状維持を望んでいた。

○認知度も高く歴史や文化への興味の発生源となっている宮跡

歴史学習や観光以外の目的で宮跡を訪れた人も、宮跡の内容や意義に関する認知度は比較的高く、また宮跡を利用することでの歴史や文化への興味の発生源という面でも、宮跡は十分

に機能としていた。

○利用者からみた最大の問題は利用マナー

宮跡に関する自由意見では、管理に関する要望が最も多く、中でも「犬の散歩」「ゴミの処理」「車やバイクの進入」など「利用マナー」に関する問題の指摘が多かった。

7-エ) 利用団体ヒアリング調査にみる特性

○観光団体は短時間の立ち寄り利用

自治会や会社組織等の一般観光団体は、奈良観光のついでに宮跡に立ち寄るという利用形態がほとんどで、これには世界遺産のひとつに指定されたというインパクトが大きく、入園・駐車場ともに無料の手軽に利用できる施設という評価がなされている。

ただし、利用形態は、朱雀門を中心とした短時間の立ち寄りが多い。

○学校団体は多様な利用

春は大阪や奈良方面の小学校の遠足、秋は近畿圏や中部圏の小中学校、首都圏などの高校の修学旅行という利用が多く、この中で宮跡は、歴史文化の体験の場として位置づけられ、利用されている。

また、市内の近傍の小学校では、総合的な学習の時間や教科学習の一環として、歴史学習や郷土学習のほか、環境学習や福祉学習など、日常的に多様な活動に利用されていた。

7-オ) 使用許可申請にみる特性

○写真や映像撮影のメッカ

年間に 100 件程度ある宮跡の利用許可申請にみる利用目的は、その半分以上が「撮影」となっている。内容は、映画のロケ、テレビの録画、雑誌や広報紙、ホームページ等に掲載するための写真撮影など多岐に渡り、趣味の活動で「写真撮影」や「ビデオ撮影」も多数みられたように、宮跡には絵になる風景が多く残されている。